

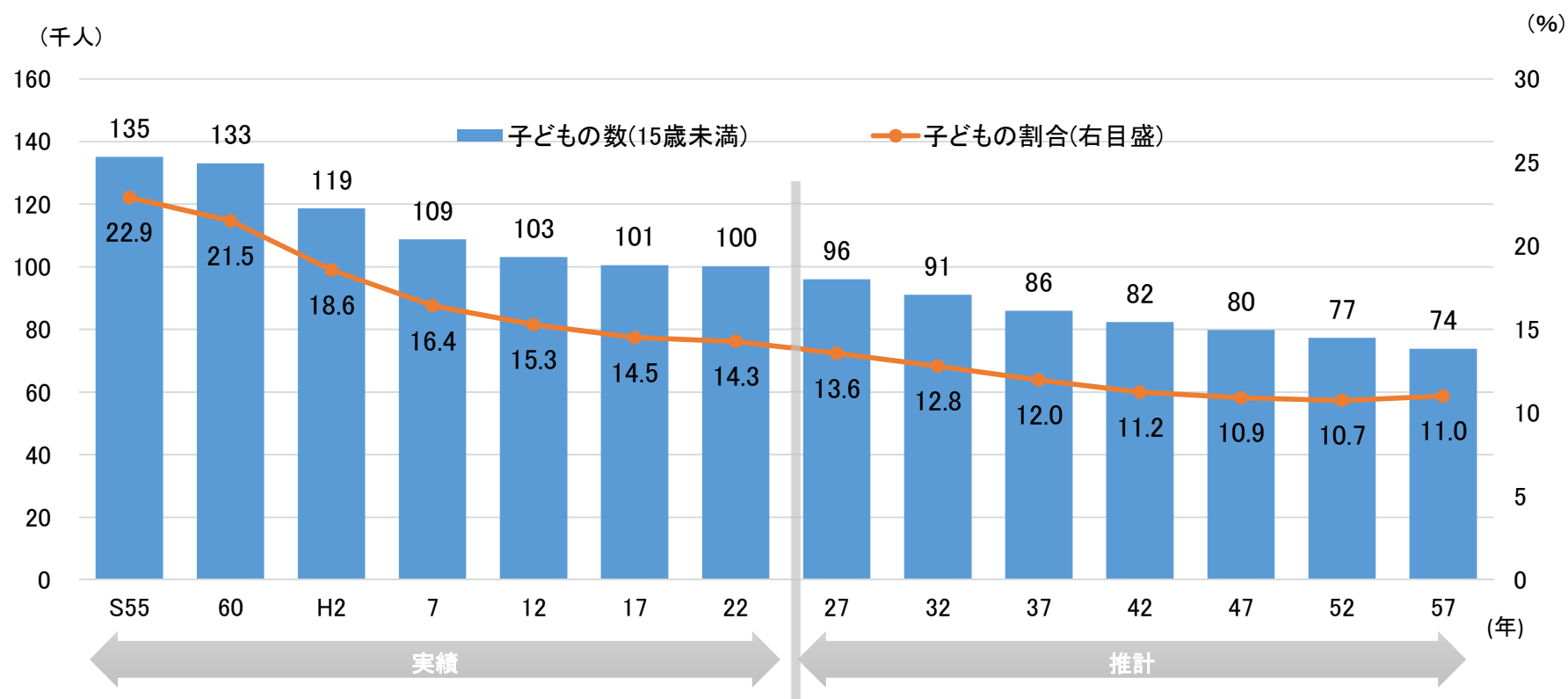
平成27年度
第2回基本政策審議会資料

～市民生活の向上と岡山の担い手づくり～

②教育、子ども、女性

岡山市の子どもの数および割合の推移と推計

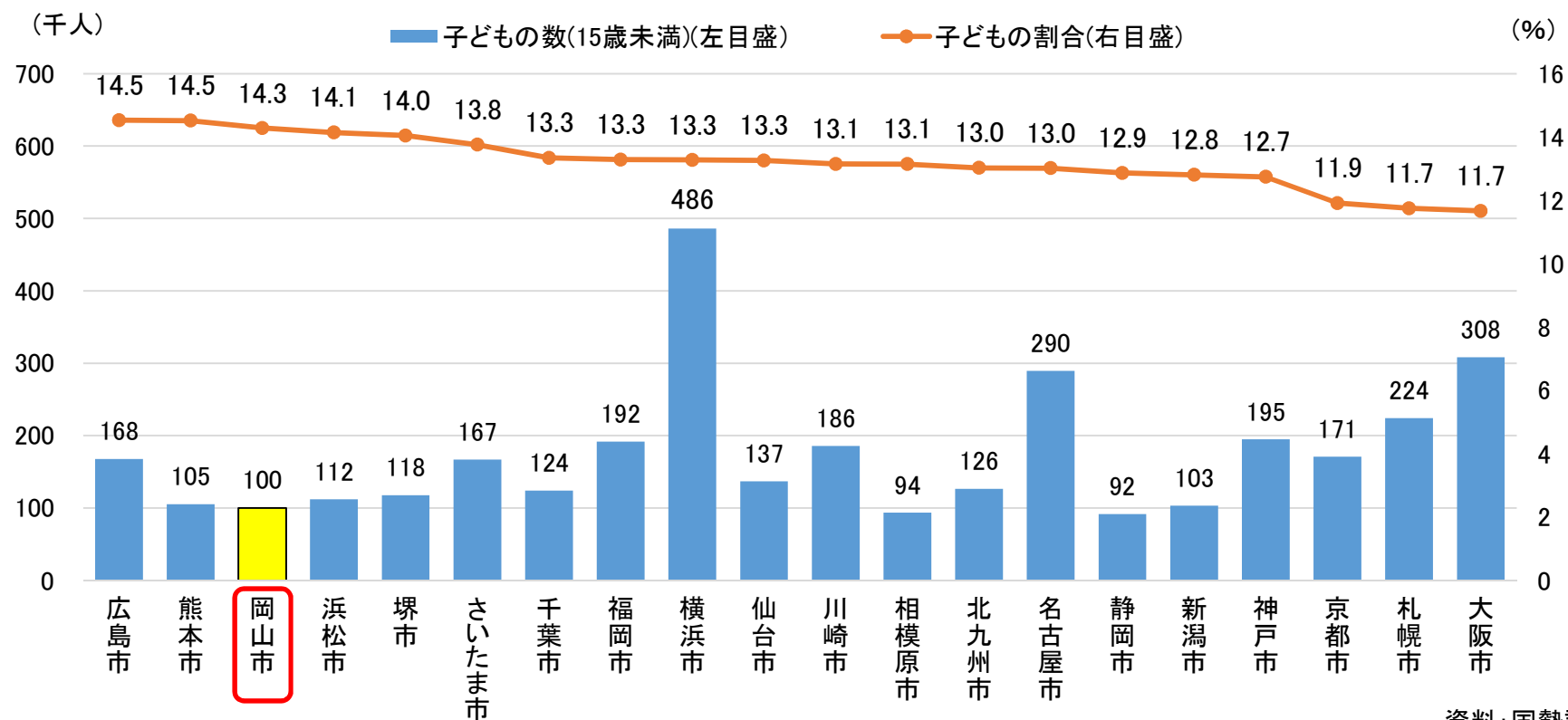
○平成22年の岡山市の子ども(15歳未満)の数は、100,175人であり、人口全体に対する子どもの割合は14.3%である。
○平成57年の子どもの数(独自推計)は73,830人と平成22年から26.3%減少し、割合は11.0%と3.3ポイント低下すると見込まれる。



資料: 国勢調査、独自推計

指定都市別 子どもの数および割合

○岡山市の子ども(15歳未満)の数(100,175人)は、指定都市の中で少ない方から3番目である。
○子どもの割合は、広島市(14.5%)および熊本市(14.5%)が最も高く、岡山市(14.3%)は3番目に高い。



資料:国勢調査

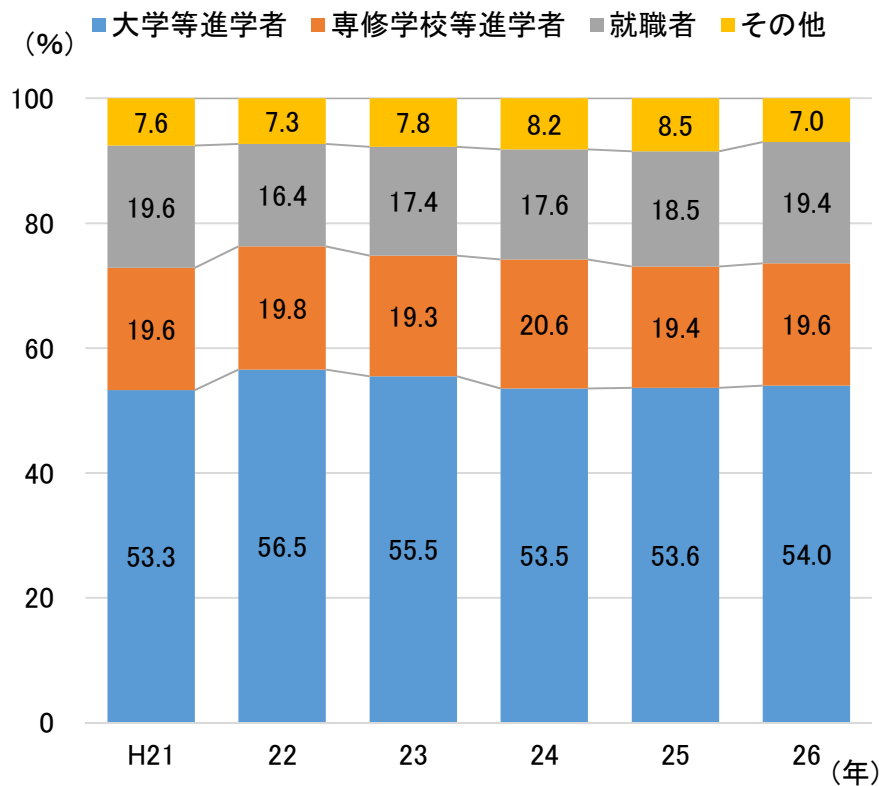
岡山市における大学進学率、就職状況等の推移及び指定都市別大学進学率



○平成26年度の岡山市の大学進学率は54.0%、専修学校等進学率は19.6%である。就職者の割合は19.4%で、平成22年度を底に4年連続で上昇している。

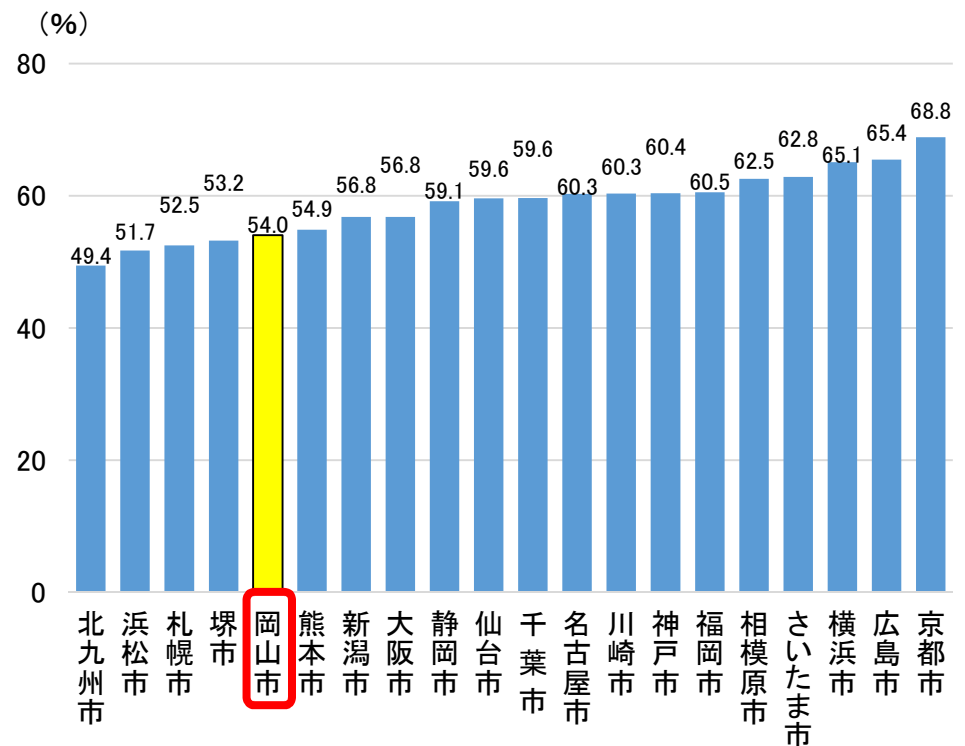
○指定都市の大学等進学率で最も高いのは京都市(68.8%)であり、岡山市は54.0%で、5番目に低い。

高等学校卒業者の状況別 割合の推移



資料: 文部科学省「学校基本調査」

指定都市別 大学進学率

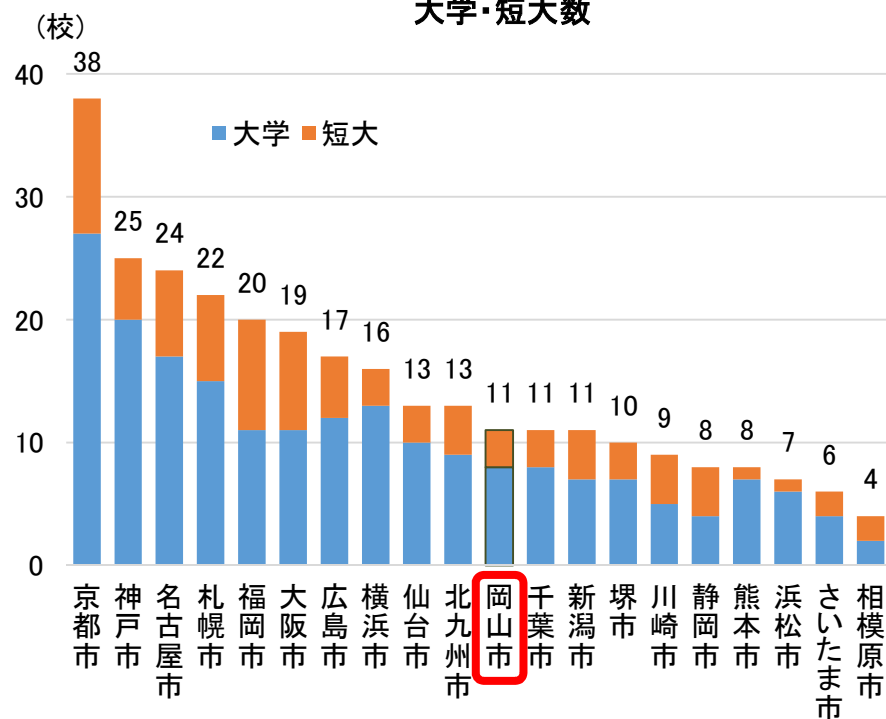


資料: 文部科学省「学校基本調査(H26)」

指定都市別 大学・短大数

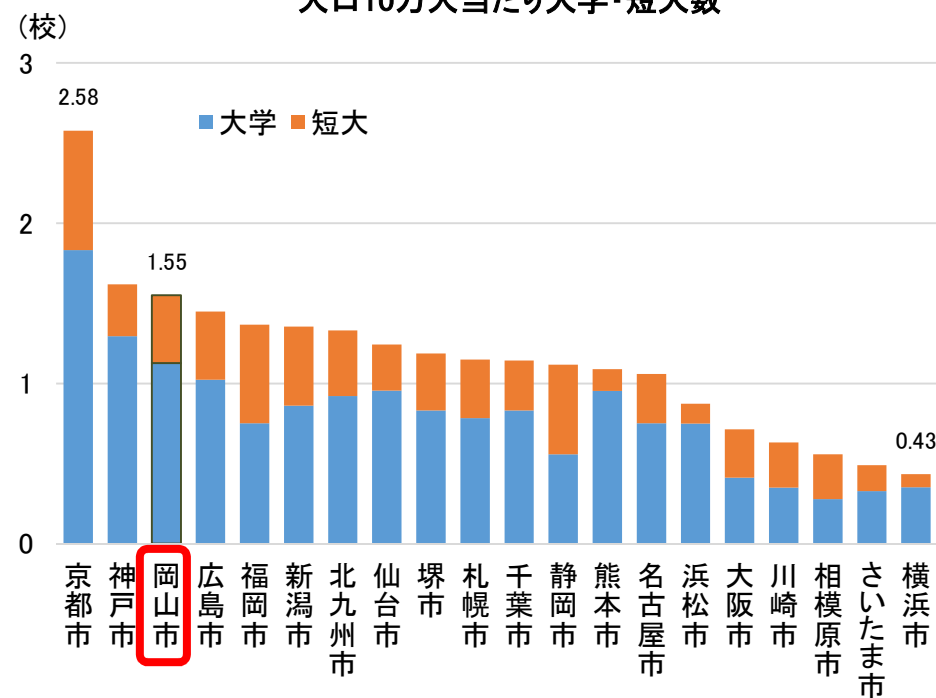
○岡山市の大学・短大数は11校であり、指定都市の中で、千葉市、新潟市と並んで11位である。
 ○岡山市の人口10万人当たり大学・短大数は1.55校であり、指定都市の中で京都市、神戸市に次いで3位である。

大学・短大数



資料: 文部科学省「学校基本調査(H26)」

人口10万人当たり大学・短大数

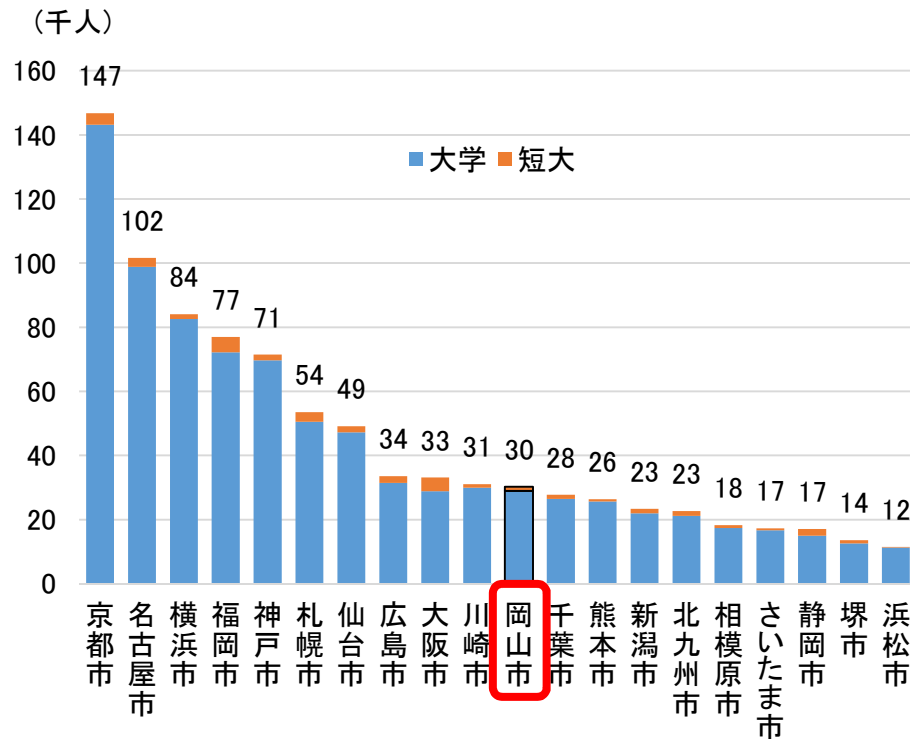


資料: 文部科学省「学校基本調査(H26)」、総務省「国勢調査(H22)」をもとに作成

指定都市別 大学・短大学生数

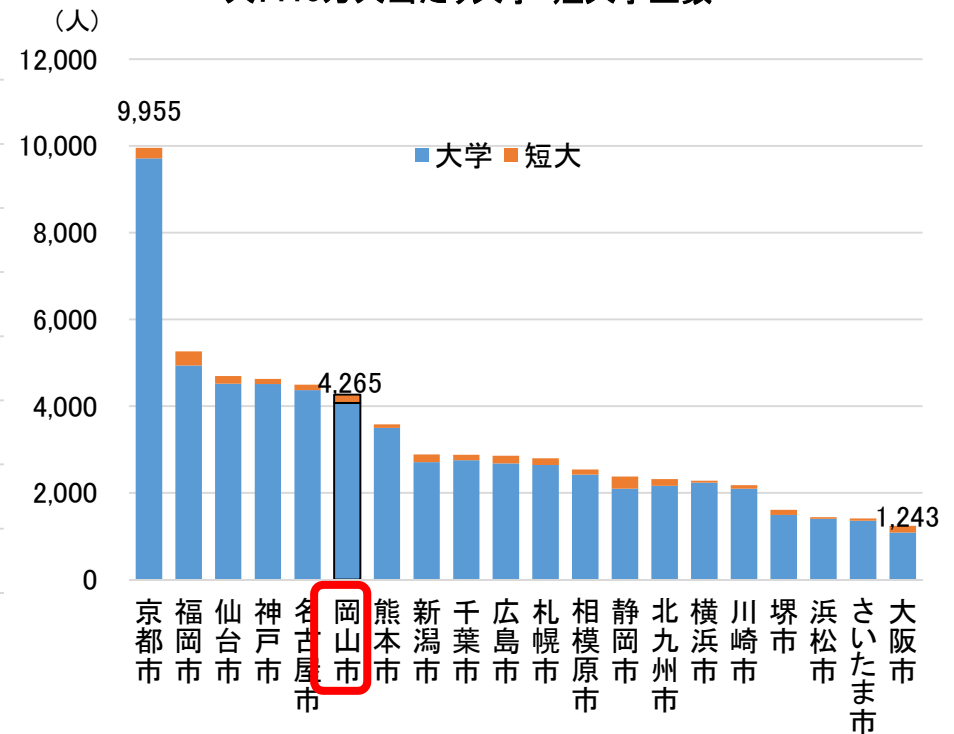
○岡山市の大学・短大の学生数は、約3万人であり、指定都市の中で11位である。
 ○岡山市の人口10万人当たり大学・短大学生数は、4,265人であり、指定都市の中で京都市、福岡市、仙台市、神戸市、名古屋市に次いで6位である。

大学・短大学生数



資料：文部科学省「学校基本調査(H26)」

人口10万人当たり大学・短大学生数



資料：文部科学省「学校基本調査(H26)」、総務省「国勢調査(H22)」をもとに作成

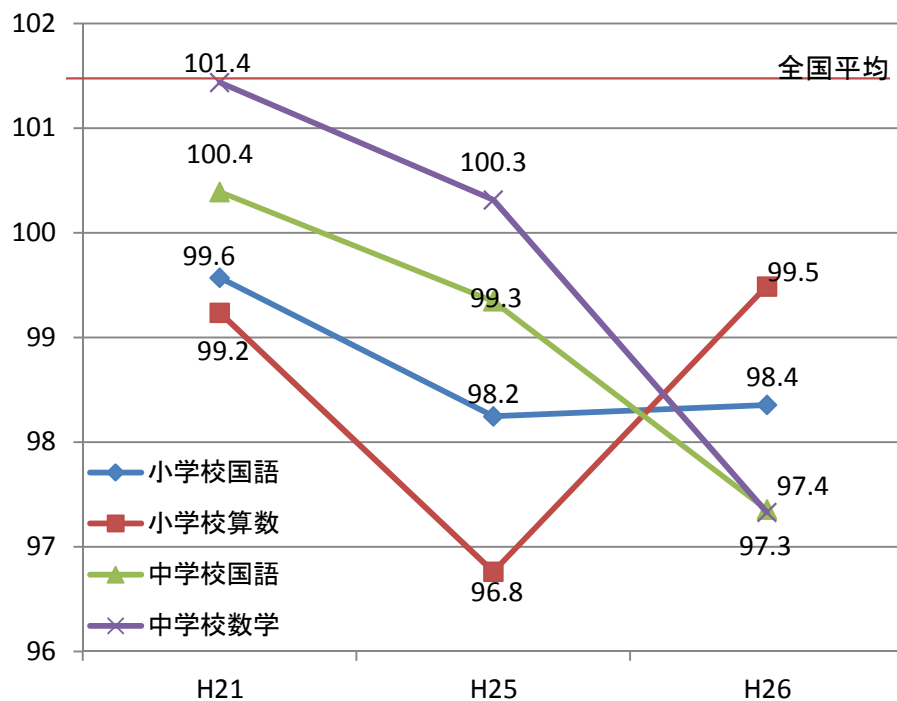
全国学力・学習状況調査における岡山市の傾向



○平成26年度の全国学力・学習状況調査における、主に「知識」に関わる問題の岡山市の正答率は、全て国を下回っている。
 ○主に「読解力・表現力」に関わる問題の岡山市の正答率は、小学校国語で国とほぼ同じ、その他は国を下回っており、特に中学校数学は国を100とした場合の値が92.2と、全国平均との差が大きい。

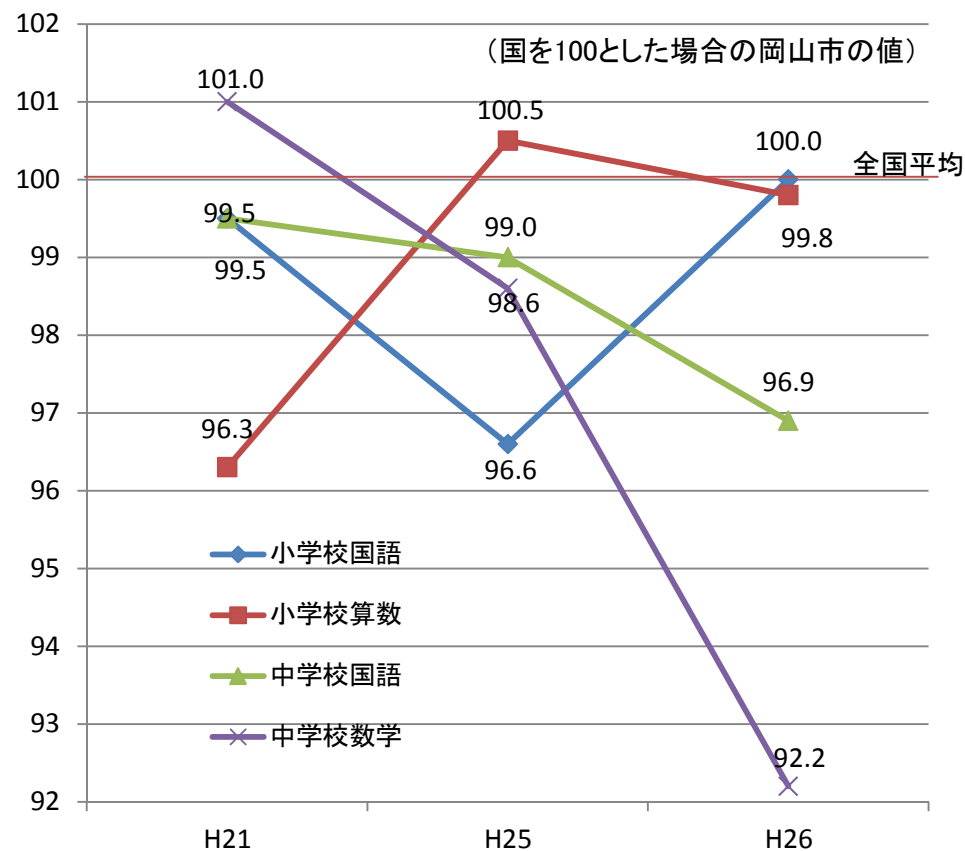
主に「知識」に関わる問題の正答率の対全国比

(国を100とした場合の岡山市の値)



主に「読解力・表現力」に関わる問題の正答率の対全国比

(国を100とした場合の岡山市の値)

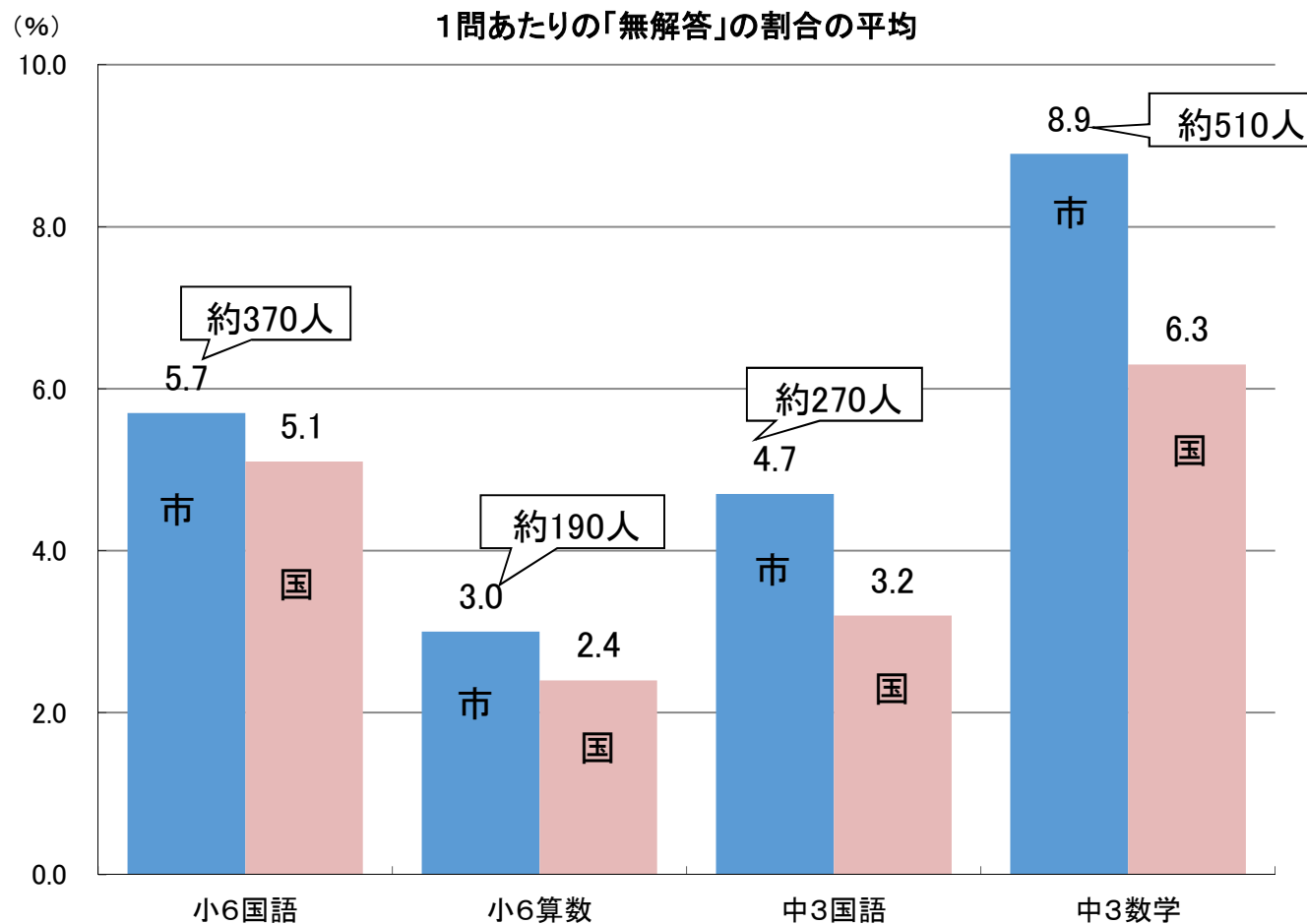


資料：全国学力・学習状況調査(文部科学省)

全国学力・学習状況調査における「無解答」の状況



- 全国学力・学習状況調査では、校種、教科を問わず、岡山市の無解答率が国より高い状況にある。
- 小学校より中学校の方が国との差が大きく、特に、中学校3年数学では、2.6ポイントの開きがある。

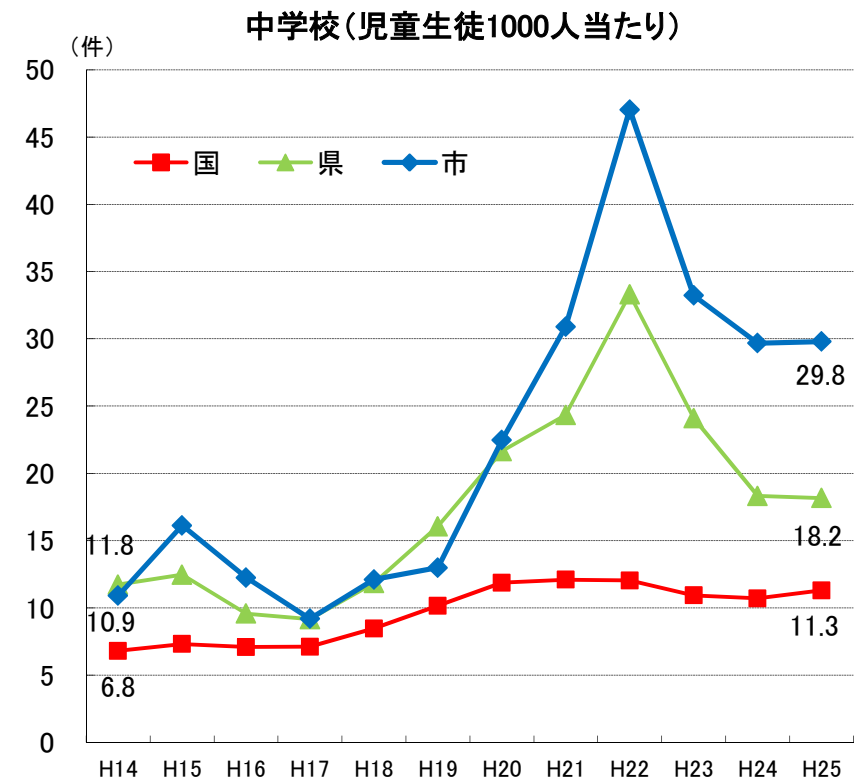
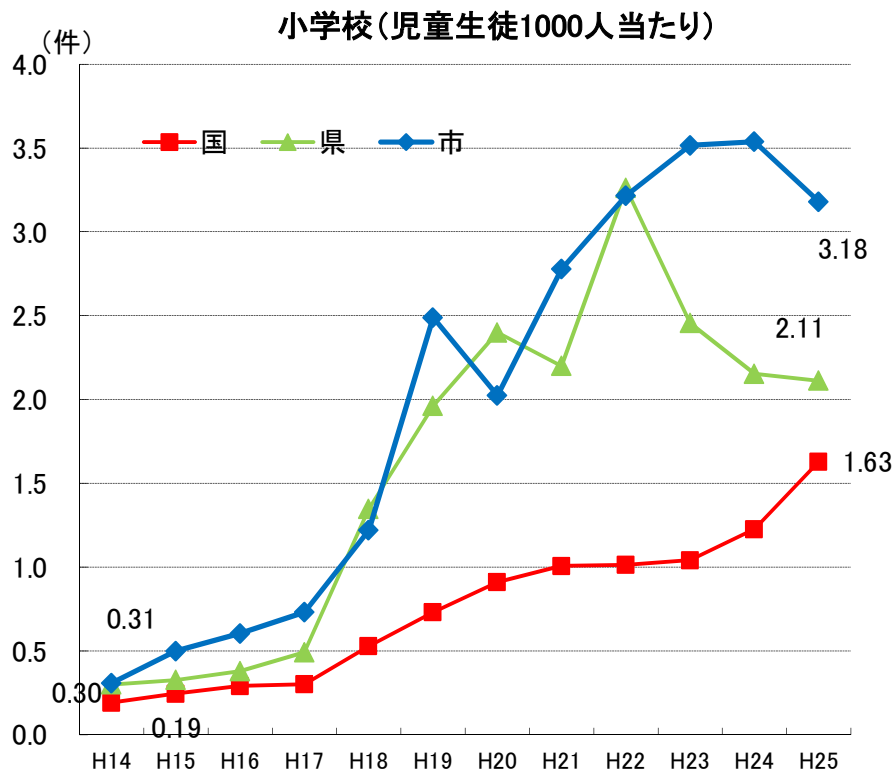


(岡山市受験者数 小学校 約6,400人 中学校 約5,760人)

資料:平成26年度全国学力・学習状況調査(文部科学省)

暴力行為の発生件数の推移

- 岡山市の児童生徒1,000人当たりの暴力行為の発生件数は、小学校、中学校ともに、国や県の発生件数を上回っている状態が続いている。
- 平成25年度の岡山市における暴力行為の発生件数は、小学校で3.18件、中学校で29.8件となっており、中学校での発生件数は、小学校での発生件数の約9.4倍になっている。
- 中学校では、平成22年度をピークに減少傾向にある。

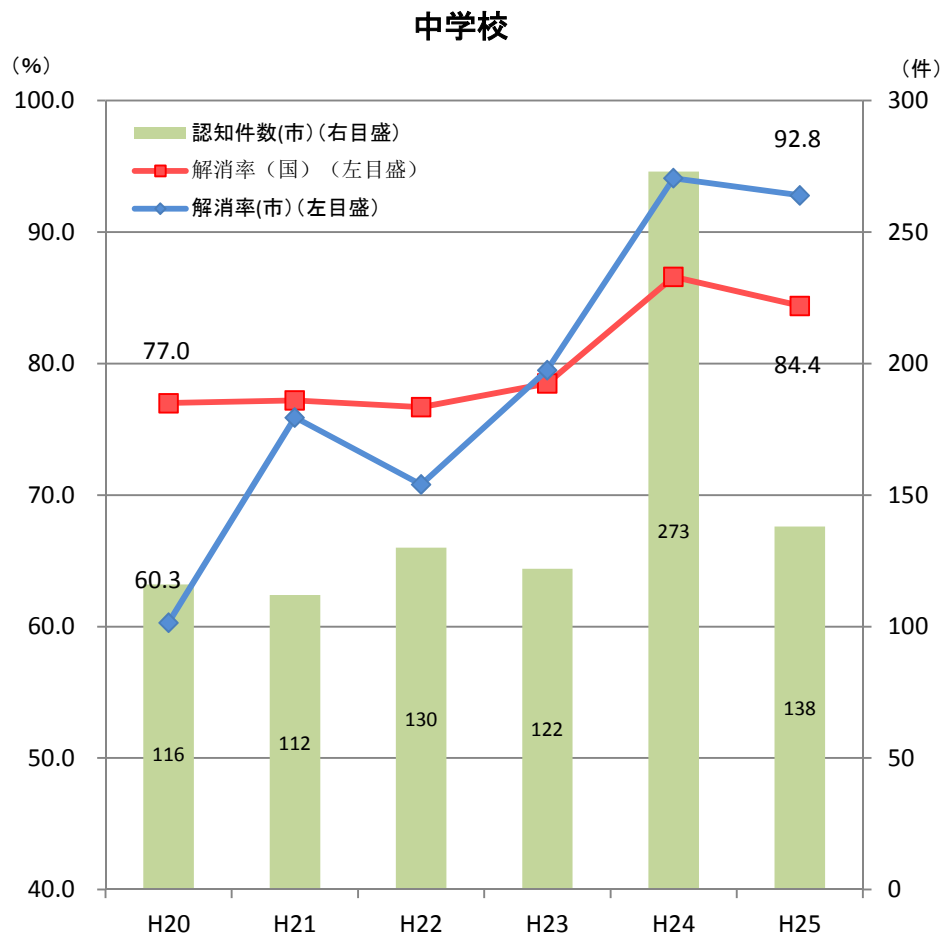
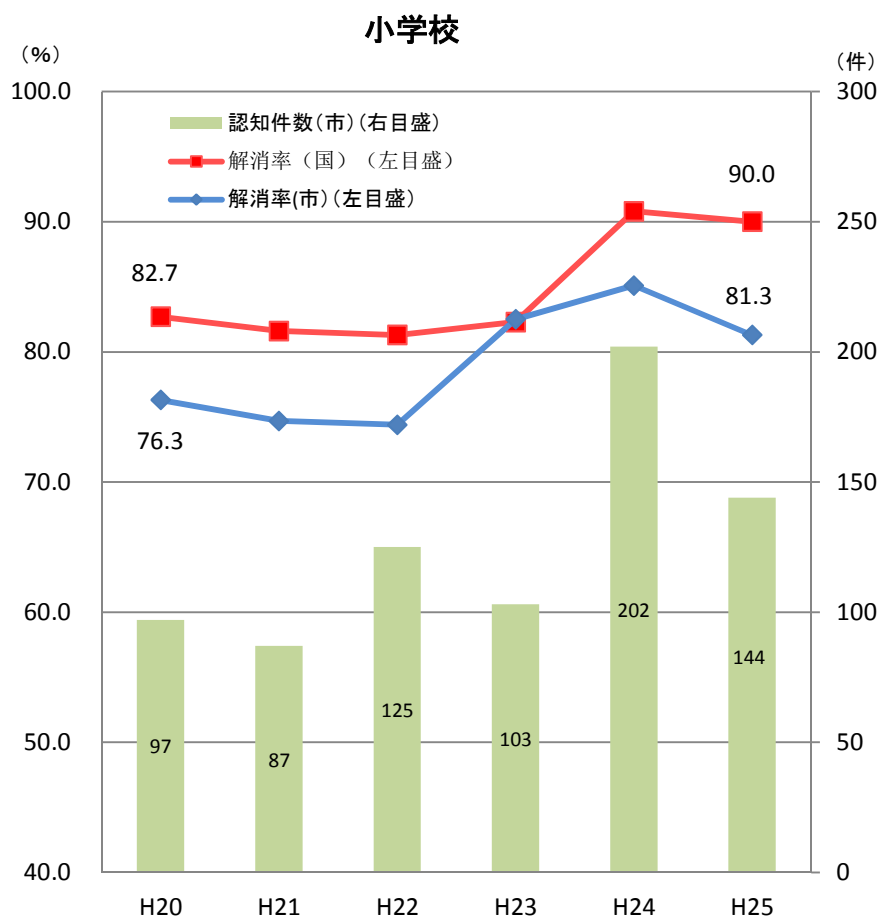


※H18以降の「調査実施上の留意点」に、軽微な行為も計上することが明記された。

資料: 児童生徒の問題行動等生徒指導上の諸問題に関する調査(文部科学省)

いじめの認知件数と解消率の推移

○岡山市のいじめの認知件数は、小学校、中学校とも、平成24年度に前年度の倍近くに増えたが、平成25年度は減少し、小学校で144件、中学校で138件となっている。
 ○いじめの解消率は、平成25年度では、小学校で81.3%、中学校で92.8%となっている。中学校では、平成20年度に比べ32.5ポイント上昇し、国の解消率を上回っている。

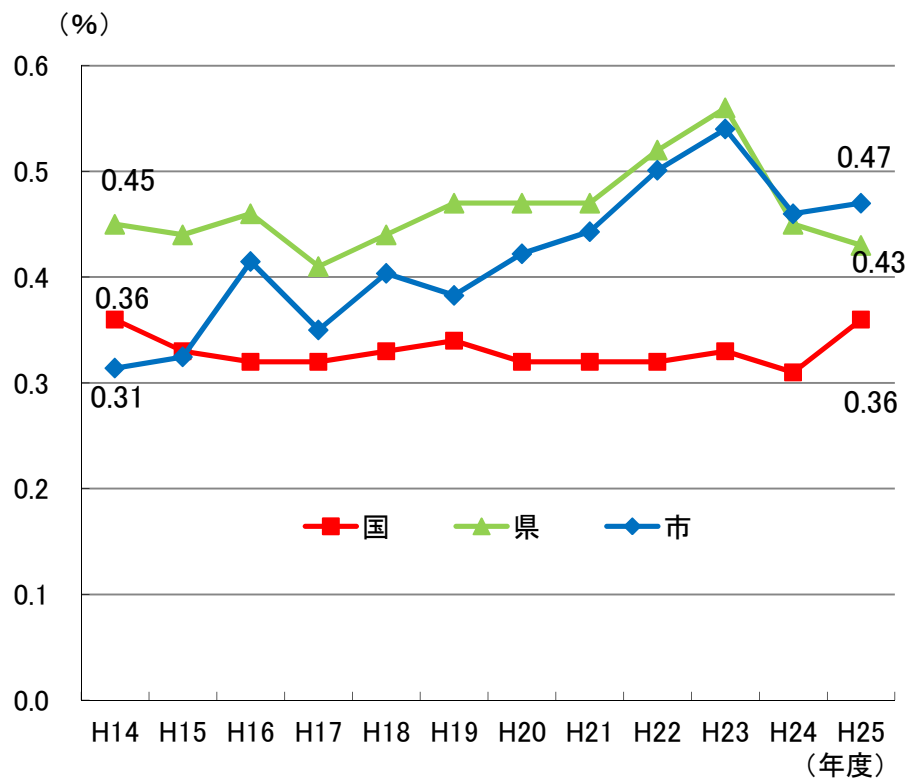


資料: 児童生徒の問題行動等生徒指導上の諸問題に関する調査(文部科学省)

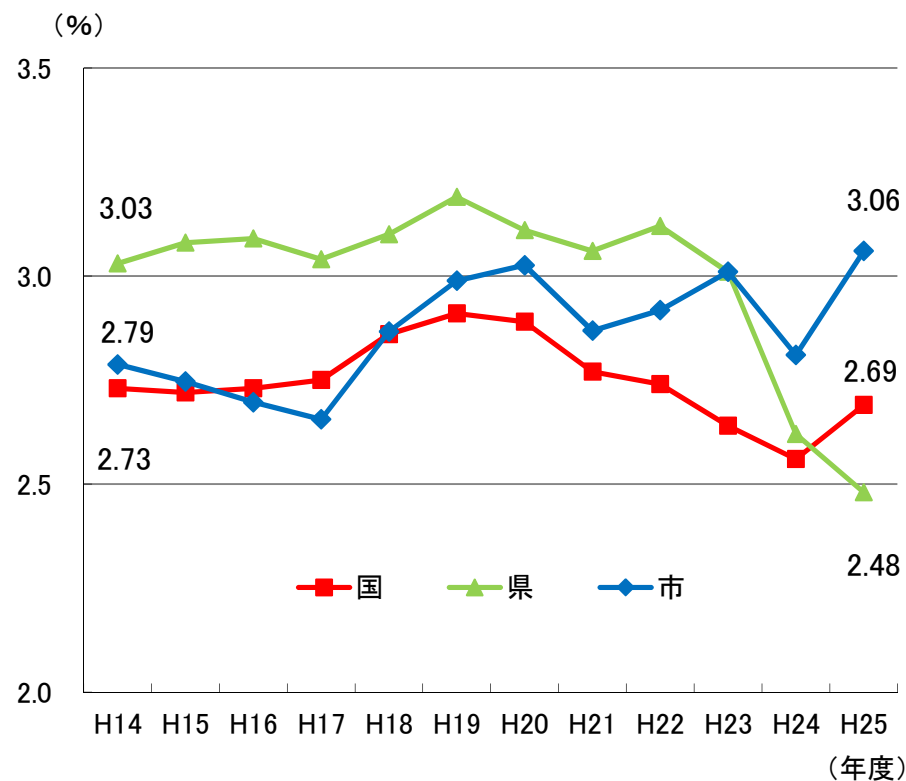
不登校の出現率の推移

○岡山市の不登校児童生徒の出現率は、小学校、中学校ともに、国や県の出現率を上回っている。
 ○平成24年度は小学校、中学校とも、前年度より減少したが、平成25年度では、小学校が0.47%、中学校
 が3.06%となっており、増加に転じた。
 ○平成25年度では、中学校の出現率は、小学校の出現率の約6.5倍となっている。

小学校



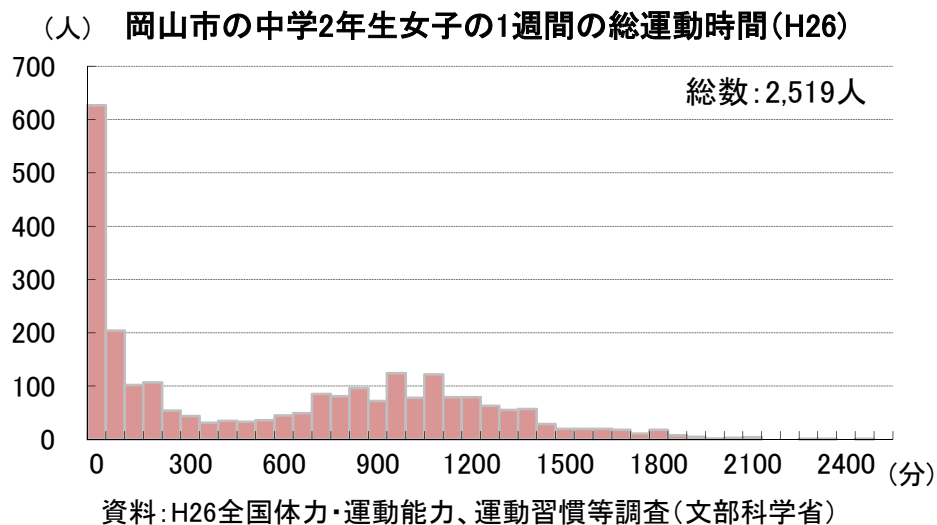
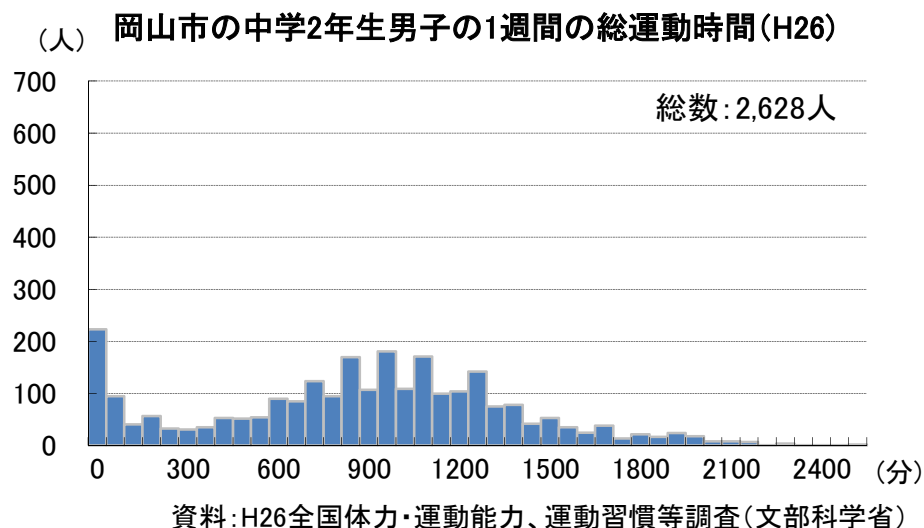
中学校



資料: 児童生徒の問題行動等生徒指導上の諸問題に関する調査(文部科学省)

中学校2年生の1週間の総運動時間の状況

○平成26年度の岡山市における中学校2年生の1週間の総運動時数が1時間に満たない生徒は、特に女子に多い(女子全体の25%)。
 ○1週間の総運動時数が1時間に満たない生徒の割合は、国や県よりも多い状態が続いているが、その差は縮まってきている。



1週間の総運動時間が60分未満の子どもの割合(中学2年生)

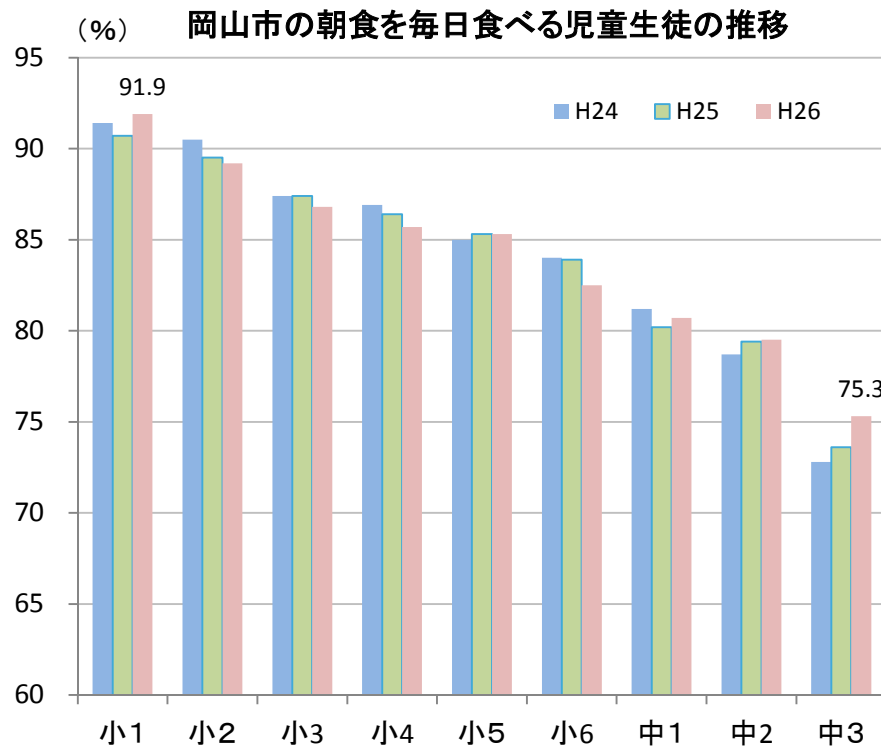
	男子				女子			
	H21	H25	H26	比較	H21	H25	H26	比較
市	11.9%	13.1%	8.5%	県との比較 2.0▼→2.1▼→1.5▼	38.1%	35.1%	24.9%	県との比較 3.9▼→3.0▼→2.2▼
県	9.9%	11.0%	7.0%		34.2%	32.1%	22.7%	
国	9.5%	9.7%	6.9%	国との比較 2.4▼→3.4▼→1.6▼	31.5%	29.9%	21.8%	国との比較 6.6▼→5.2▼→3.1▼

※ H26の調査から、質問内の「体育の授業以外の運動」の定義が遊びを含む内容に変更された。

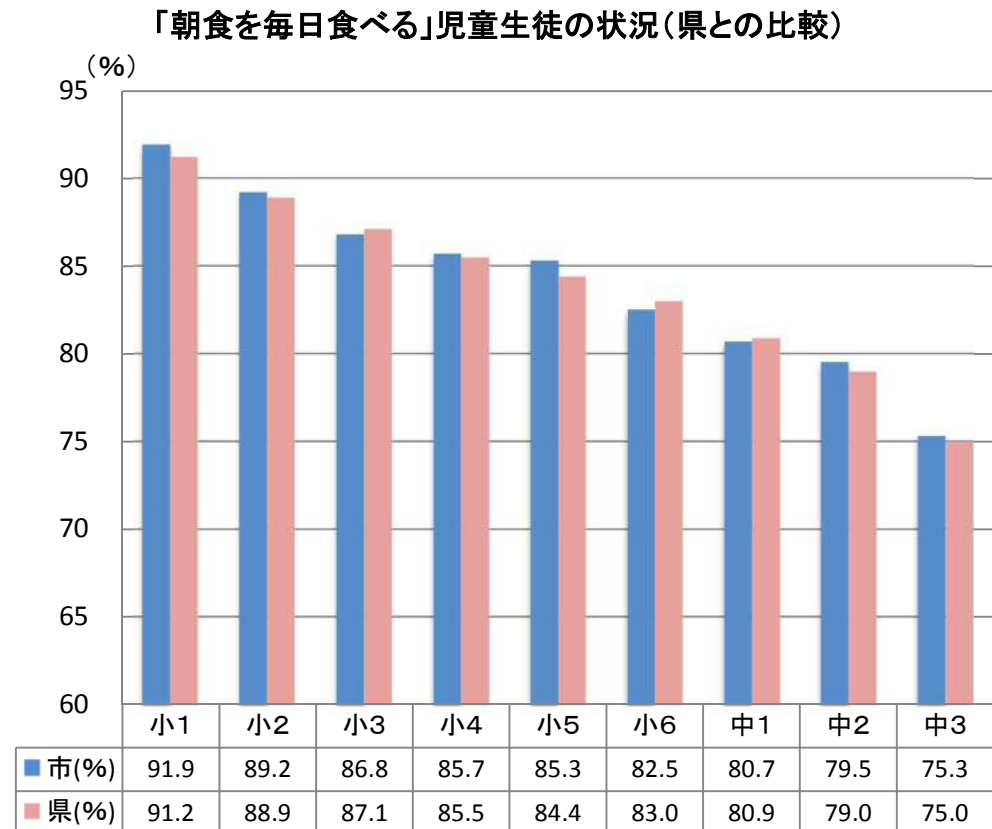
資料: 全国体力・運動能力、運動習慣等調査(文部科学省)

朝食を毎日食べる児童生徒の状況

○朝食の摂取率は、学年が上がるにつれて下がっている。平成26年度では、小学校1年生で91.9%、中学校3年生で75.3%となっている。
 ○朝食の摂取率について県と比較すると、どの学年においても大きな差はない。



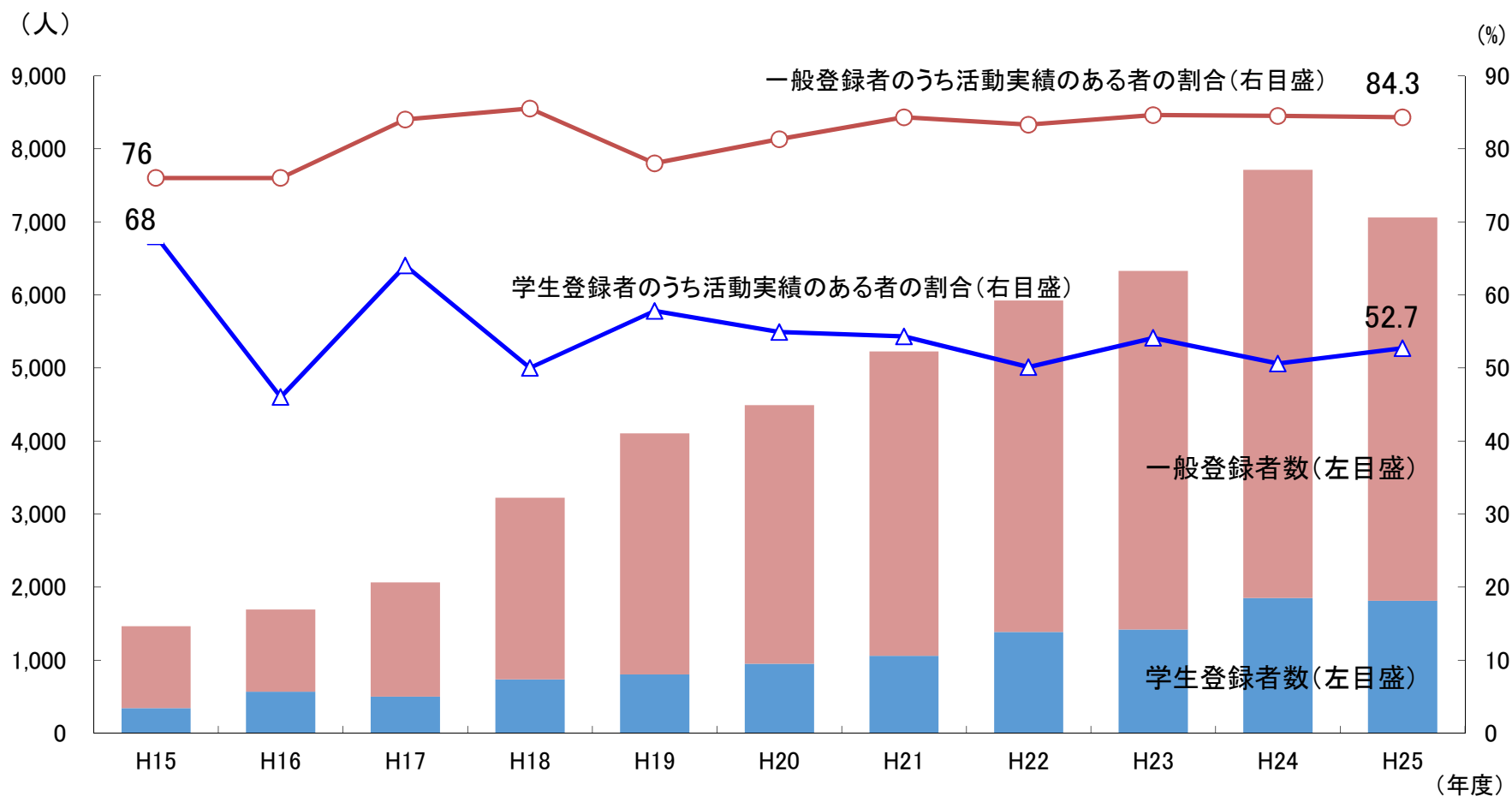
資料:岡山県児童生徒の朝食摂取状況調査



資料:平成26年度岡山県児童生徒の朝食摂取状況調査

学校支援ボランティアの現状

○学校支援ボランティアの登録者数は増加傾向にあり、この10年間で約4.8倍になっている。
 ○一般の登録者のうち活動実績のある登録者は8割を超えているが、学生の登録者については5割程度となっている。



資料:市教育委員会事務局調べ

地域協働学校（岡山市版コミュニティ・スクール）指定の推移

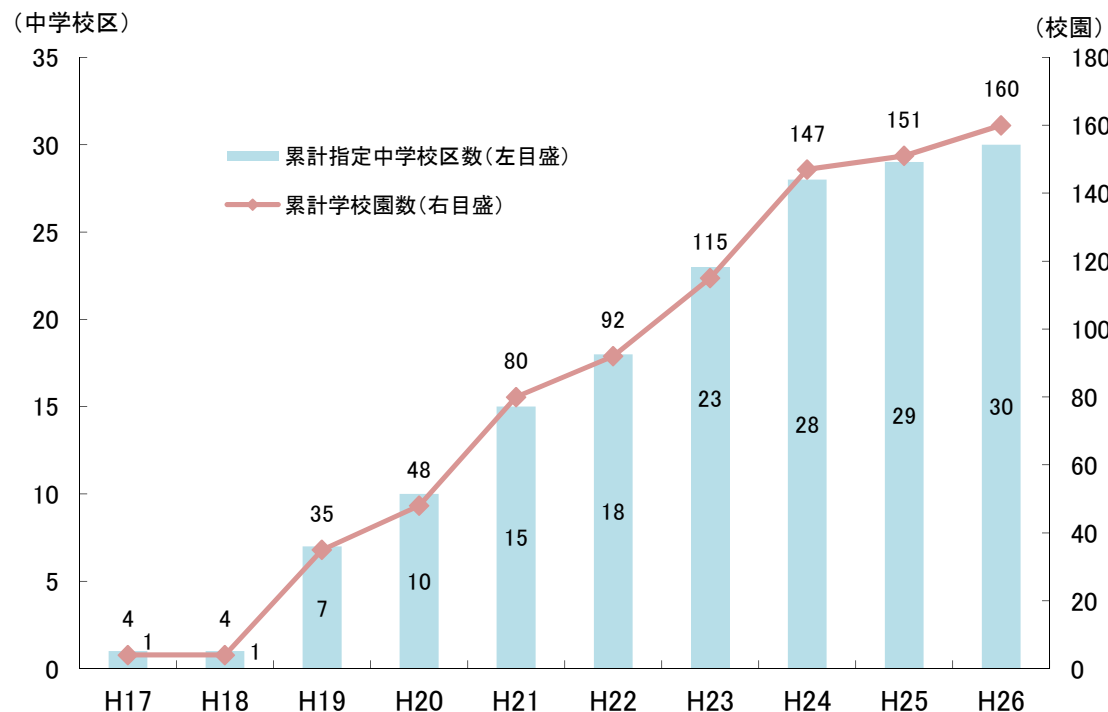


○岡山市において平成17年度から指定を進めている地域協働学校（岡山市版コミュニティ・スクール）は、平成26年度末時点で、30中学校区、160校園を指定している。

○岡山市の地域協働学校（岡山市版コミュニティ・スクール）の指定校数は、平成26年4月1日時点で、全国の市区町村の中で京都市に次いで2番目に多い。

※地域協働学校とは、家庭・学校・地域社会が、それぞれの役割を果たし、三者協働で「自立する子ども」の育成を目指すもの。

地域協働学校指定の推移



資料：市教育委員会事務局

指定数の多い教育委員会

教育委員会名	指定校数(校)
京都市教育委員会	206
岡山市教育委員会	151
横浜市教育委員会	109
世田谷区教育委員会	93
出雲市教育委員会	84

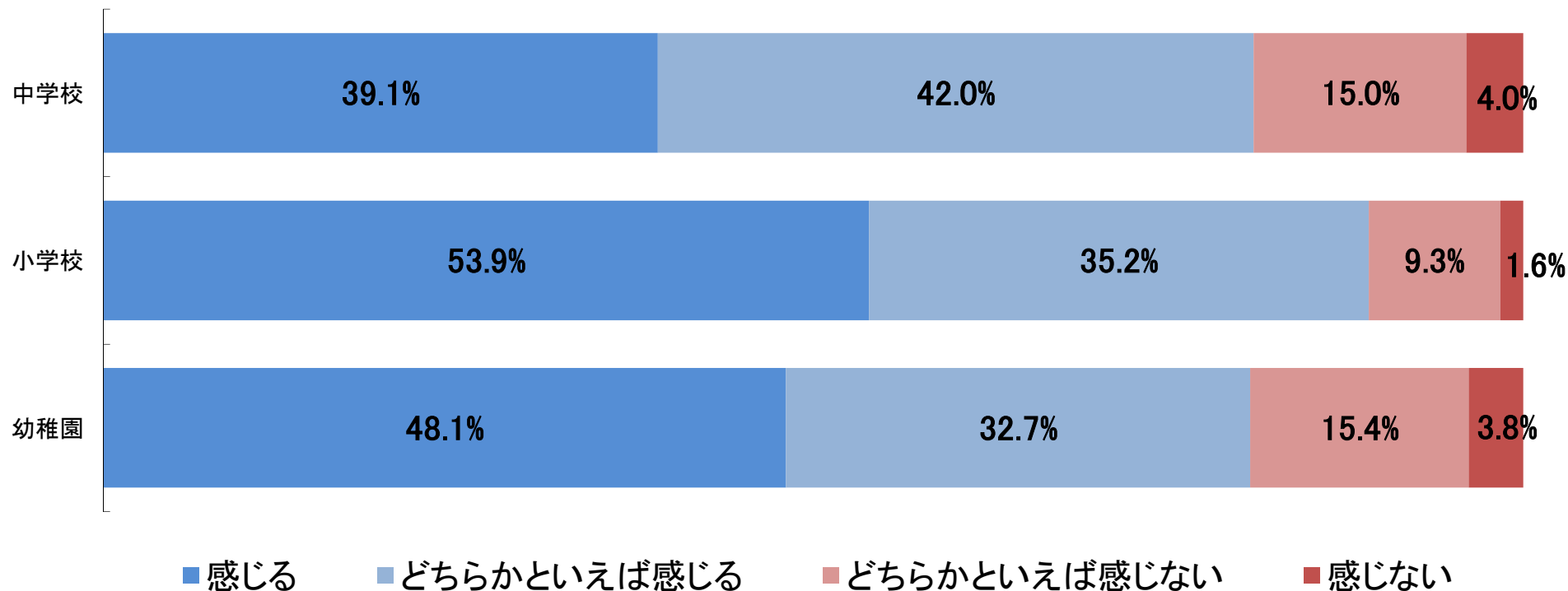
資料：文部科学省調べ(H26.4.1)

子どもと向き合う時間が不足していると答えた教職員の割合



○校種を問わず、8割以上の教職員が子どもと向き合う時間が不足していると感じている。特に、小学校では、89.1%の教職員がそのように感じている。

子どもと向き合う時間が不足していると感じているか～教職員意識調査～

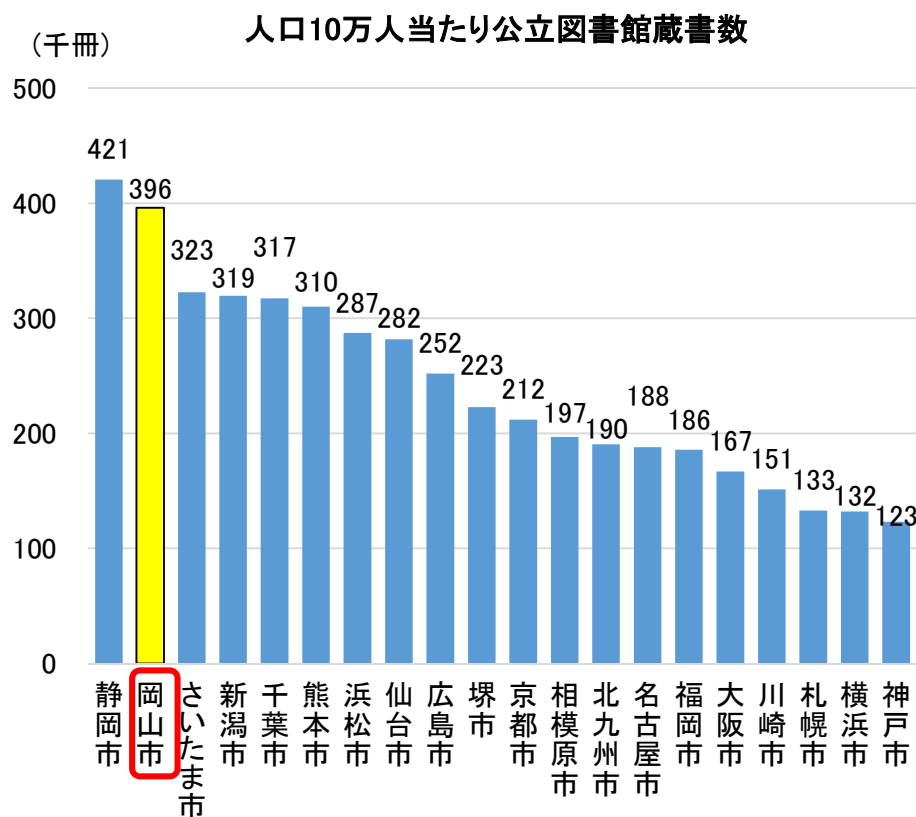


資料: 市教育委員会事務局(H24)

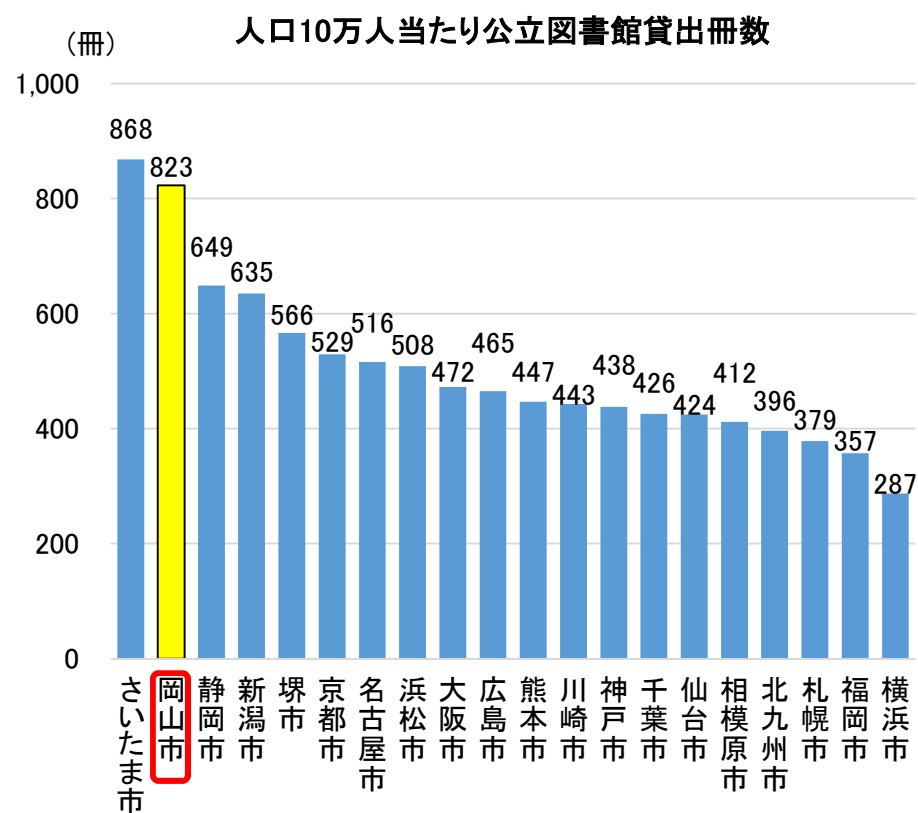
指定都市別 公立図書館蔵書数と貸出冊数

○岡山市の人口10万人当たりの公立図書館蔵書数は、約39万6千冊で、指定都市の中で、静岡市について2番目に多い。

○岡山市の人口10万人当たりの公立図書館貸出冊数は、823冊で、指定都市の中で、さいたま市について2番目に多い。



資料:大都市比較統計年表(H24)



資料:大都市比較統計年表(H24)

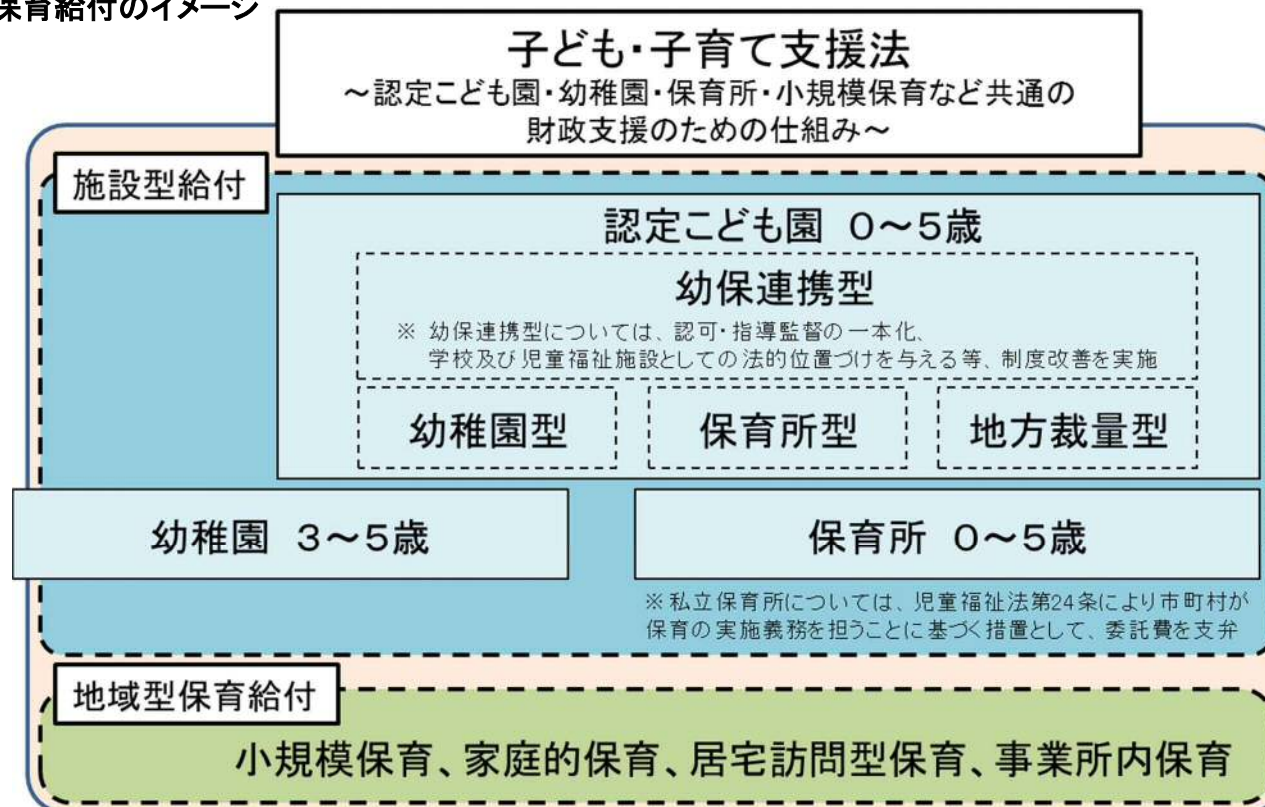
子ども・子育て支援新制度の概要

○子ども・子育て支援新制度は、少子化、子育て家庭の孤立、保育所の待機児童など、子育てに関わる社会的課題に対応し、子どもの健やかな成長を社会全体で支え、子育てしやすい環境を整えていくことを目指して創設されたものであり、平成27年度から本格施行。

○新制度のポイント

1. 認定こども園、幼稚園、保育所を通じた共通の給付（「施設型給付」）及び小規模保育等への給付（「地域型保育給付」）の創設
2. 認定こども園制度の改善（幼保連携型認定こども園の改善等）
3. 地域の実情に応じた子ども・子育て支援（利用者支援、地域子育て支援拠点、放課後児童クラブなどの「地域子ども子育て支援事業」）の充実

施設型・地域型保育給付のイメージ

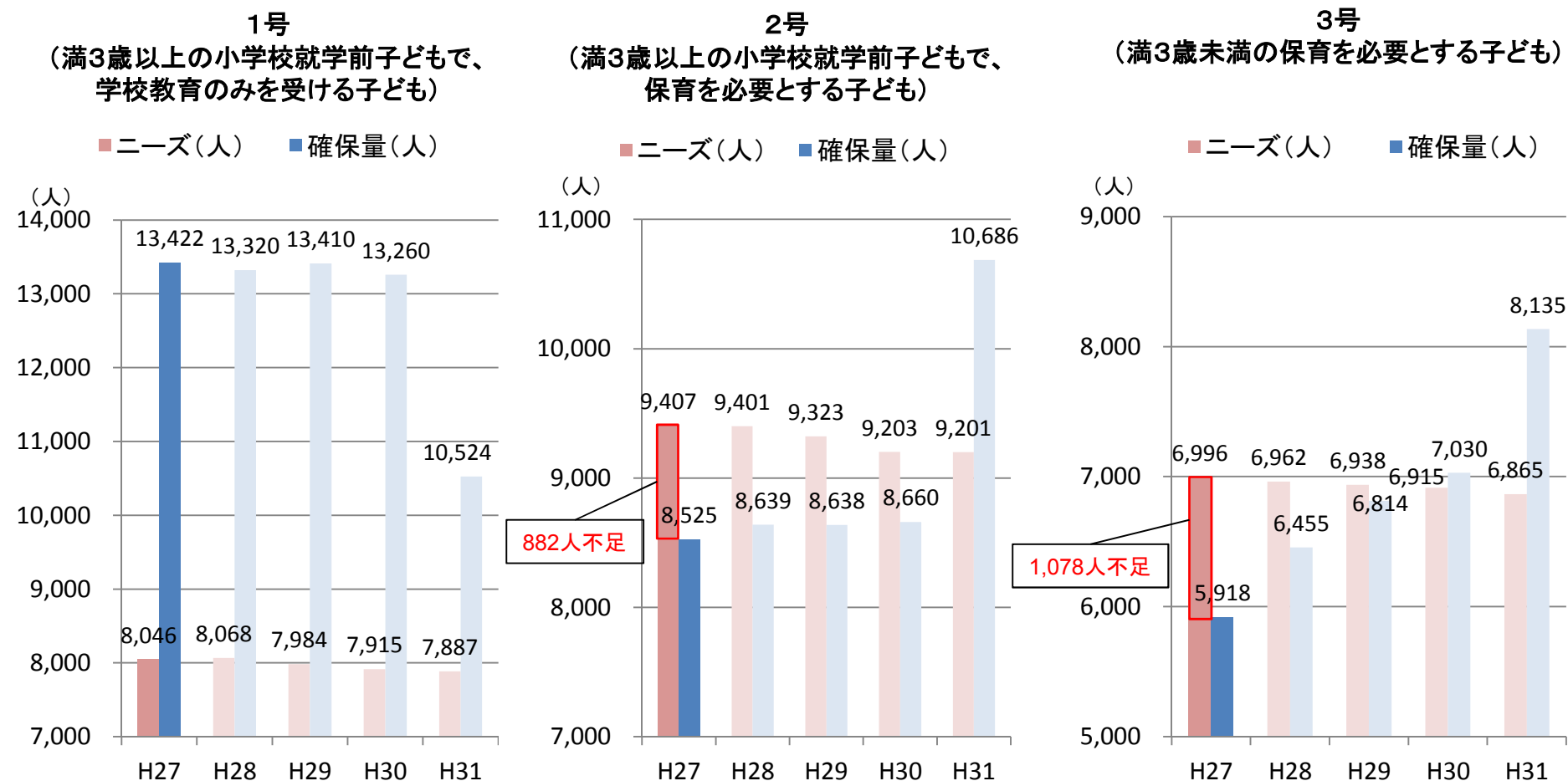


資料：岡山市岡山っ子育て局

教育・保育の量の見込み及び確保方策

○岡山市子ども・子育て支援事業計画では、平成27～31年度の5年間における幼児期の学校教育・保育・地域の子育て支援についての計画を策定している。

○平成27年度時点で、教育・保育の量の見込みに対し、1号施設は充足しているが、2号、3号施設が1,960人分不足している。

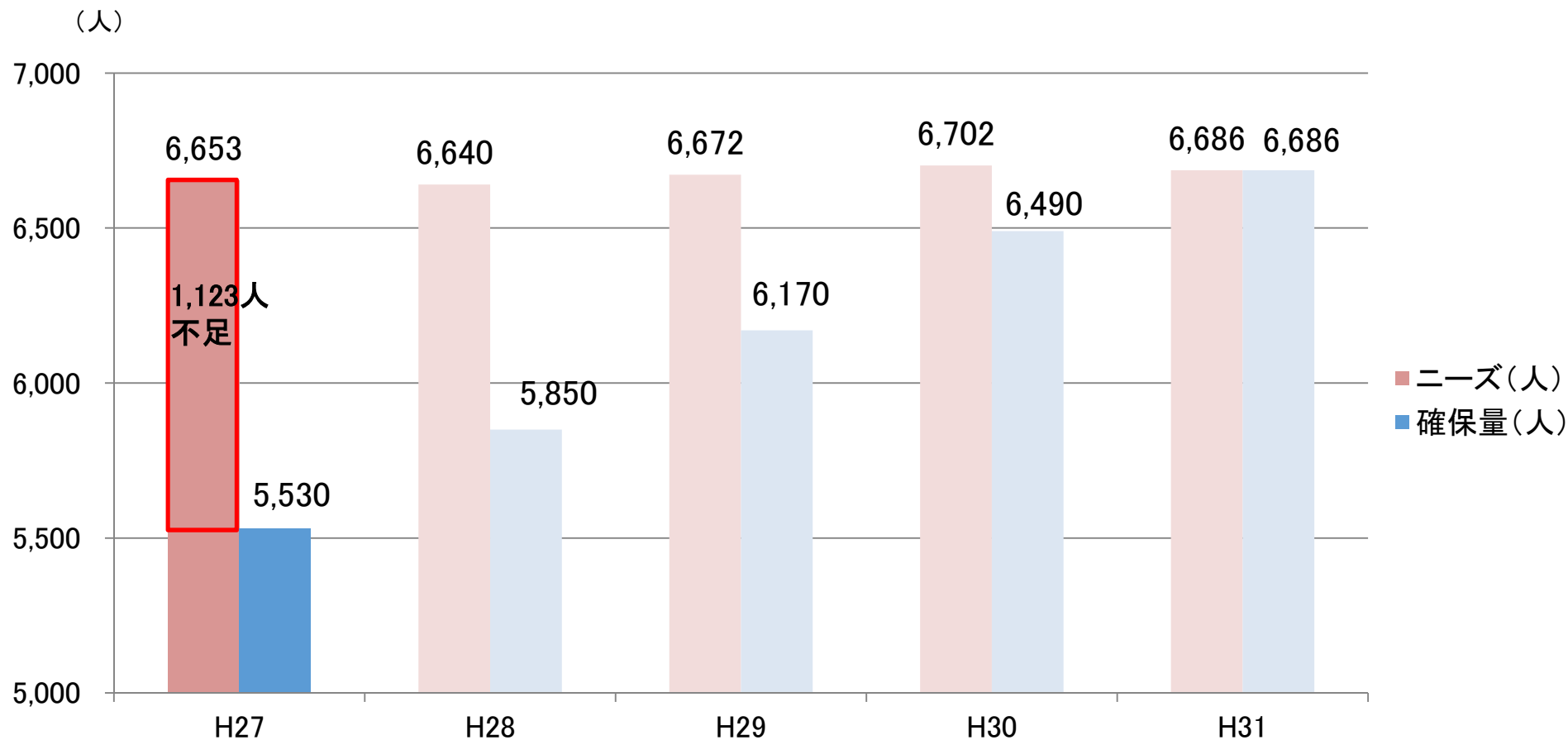


岡山市子ども・子育て支援事業計画では、市内を30の教育・保育提供区域に分け、平成31年度を目標に、それぞれの区域ごとにニーズを満たす確保量を設定しているため、岡山市全体では需要が満たされる見込み。

資料：岡山市子ども・子育て支援事業計画

○平成27年度からの子ども・子育て支援新制度施行に伴い、対象児童が小学校3年生から6年生まで拡大。潜在的ニーズまで含めると平成27年度時点で1,123人の不足が発生する見込み。

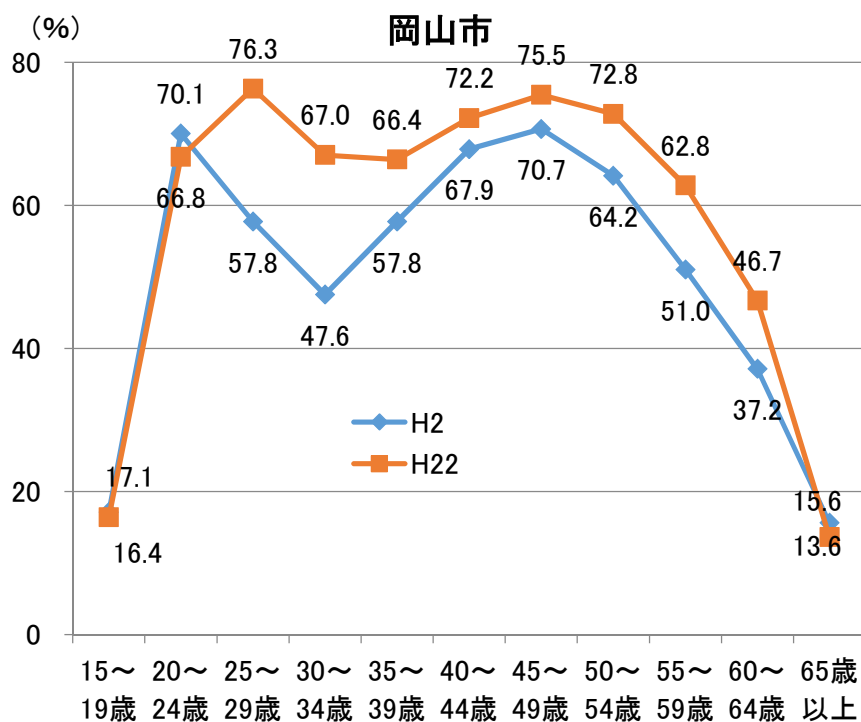
放課後児童クラブ 量の見込み



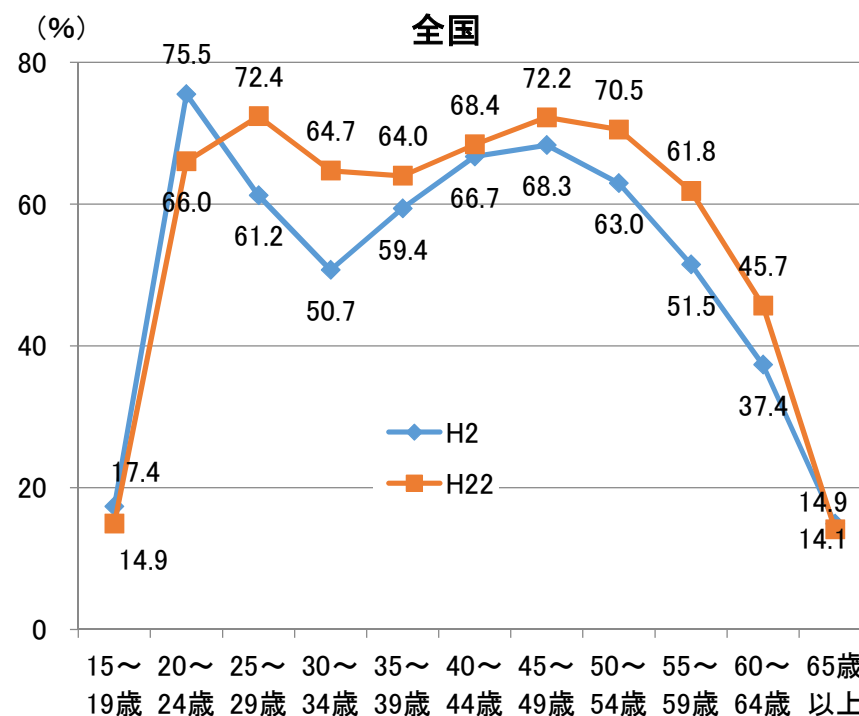
資料: 岡山市子ども・子育て支援事業計画)

岡山市の女性労働力率

○岡山市の女性の労働力率は、平成2年から22年の20年間に、25歳～64歳にかけて幅広く上昇している。特に25～29歳では18.5ポイント、30～34歳では19.4ポイントと大幅に上昇している。
○平成2年は25～39歳の労働力率が全国より下回っていたが、平成22年には全国より上回った。



資料：国勢調査

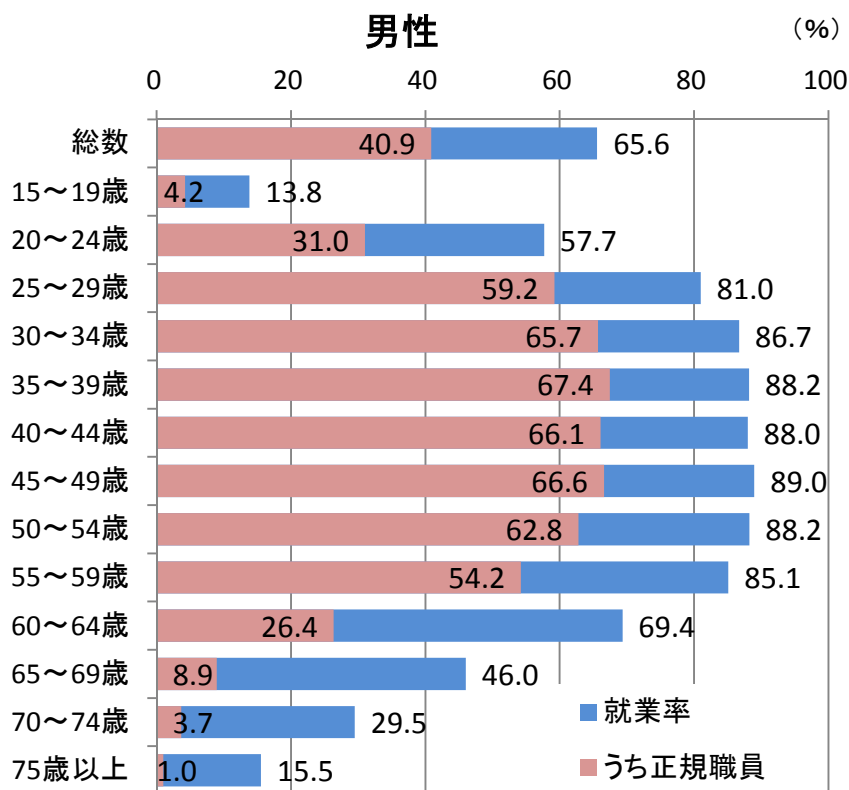


資料：国勢調査

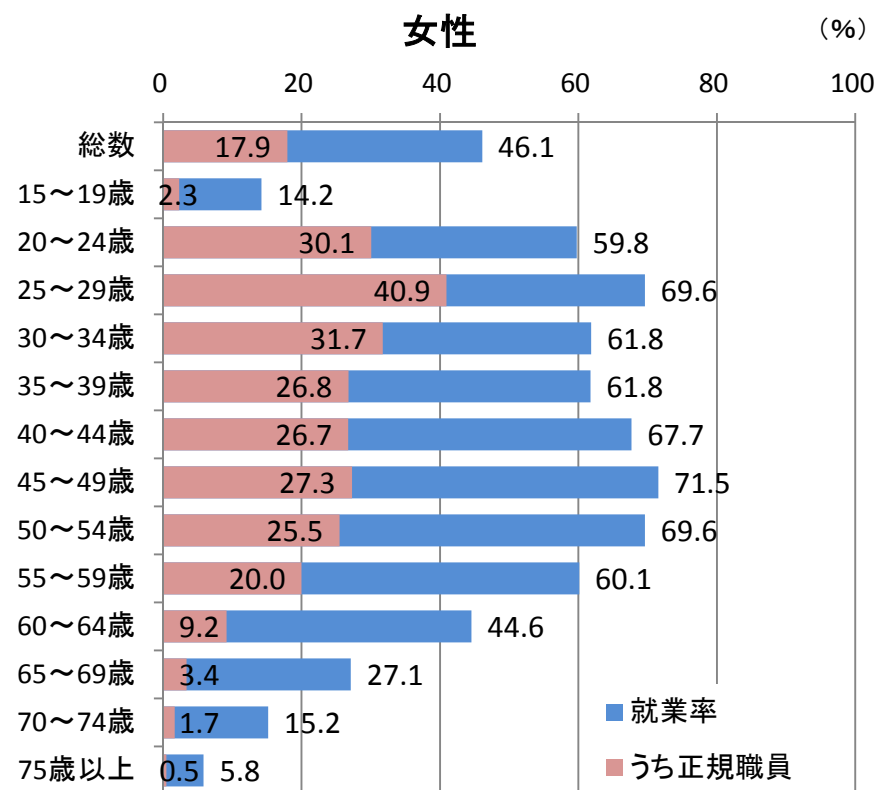
注：労働力率とは、15歳以上人口に占める労働力人口（就業者＋完全失業者）の割合。

岡山市の年齢別就業率と正規職員の割合

- 就業率は、総じて女性より男性の方が高い。
- 男性の就業率は、25～29歳で80%を超え、30～59歳まで80%台後半の高水準。正規職員の割合は、25～59歳の間で50%を上回っている。
- 女性の就業率は、25歳以降では男性よりも下回っている。出産・子育てが一段落した40～44歳から就業率が上昇するが、正規職員の割合は横ばいにとどまっている。



資料: 国勢調査



資料: 同左

指定都市別 管理的職業従事者に占める女性の割合



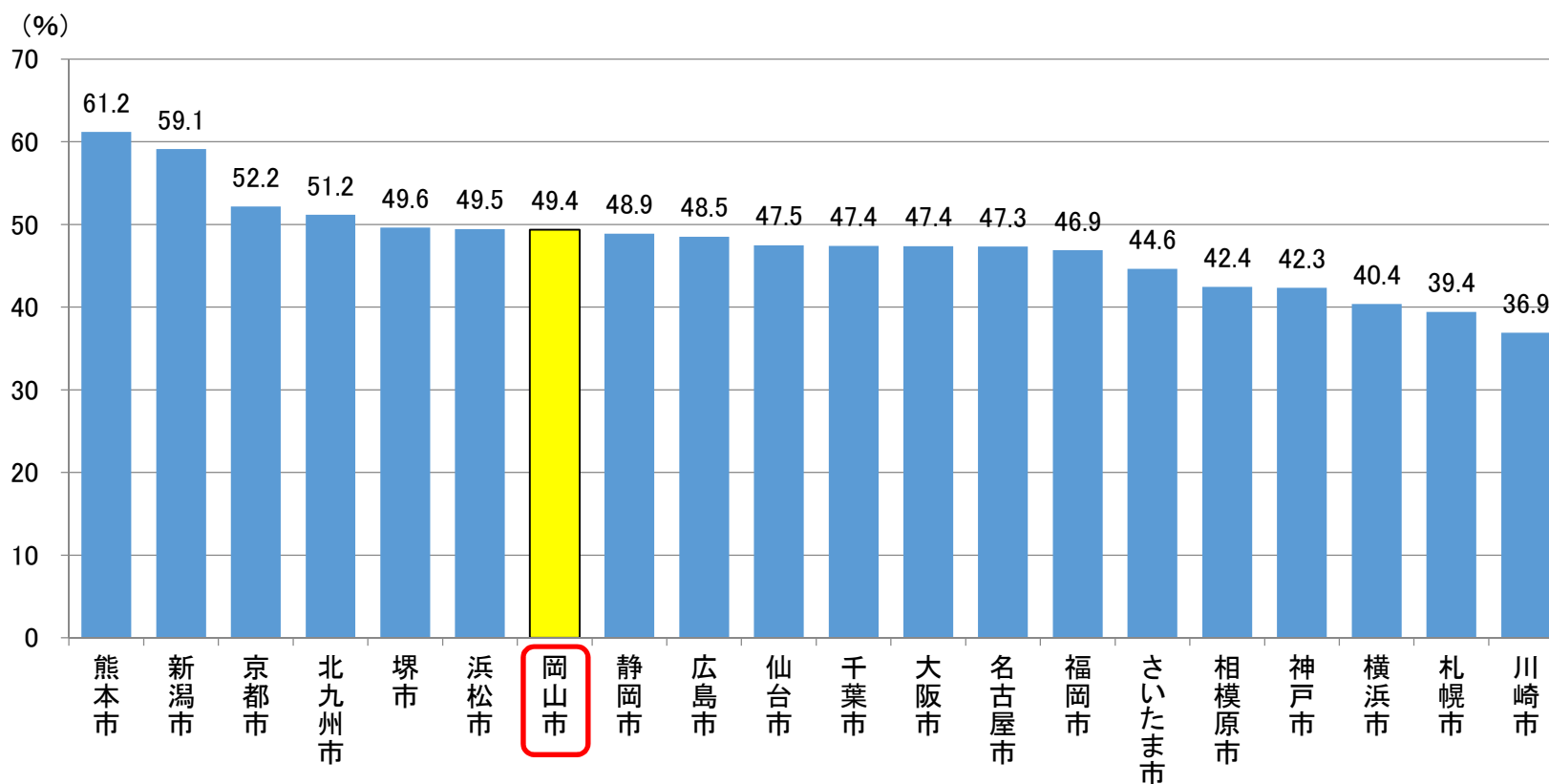
○有業者に占める女性の割合は約半数だが、管理的職業従業者に占める女性の割合は、指定都市の中で15位であり、全国平均を下回っている。

有業者に占める女性の割合(%)		管理的職業従事者に占める女性の割合(%)		女性有業者に占める女性管理的職業従事者の割合(%)	
熊本市	46.8	神戸市	22.5	大阪市	1.3
北九州市	45.6	大阪市	20.9	神戸市	1.2
福岡市	45.5	熊本市	20.5	福岡市	1.1
京都市	44.8	京都市	19.5	京都市	1.0
岡山市	44.8	福岡市	18.5	熊本市	0.9
新潟市	44.4	広島市	17.1	堺市	0.8
大阪市	44.1	堺市	16.3	静岡市	0.8
広島市	44.0	北九州市	16.0	札幌市	0.8
静岡市	43.9	静岡市	14.1	名古屋市	0.7
札幌市	43.7	札幌市	13.0	北九州市	0.7
堺市	43.3	名古屋市	12.9	広島市	0.7
神戸市	43.1	横浜市	11.2	横浜市	0.7
仙台市	43.0	さいたま市	11.1	さいたま市	0.6
名古屋市	42.5	浜松市	10.9	浜松市	0.6
浜松市	42.3	岡山市	10.7	岡山市	0.5
相模原市	42.1	新潟市	10.1	新潟市	0.5
千葉市	41.5	川崎市	9.5	川崎市	0.4
横浜市	40.8	仙台市	8.5	仙台市	0.4
さいたま市	40.3	相模原市	8.0	相模原市	0.4
川崎市	40.3	千葉市	7.1	千葉市	0.3
全国	43.0	全国	13.4	全国	0.7

資料:総務省「平成24年就業構造基本調査」

指定都市別 育児をしている女性の有業率

○育児をしている女性の有業率は、熊本市の1位、新潟市の2位に次いで、京都市～福岡市まで概ね横並びであるが、岡山市は49.4%で7位である。

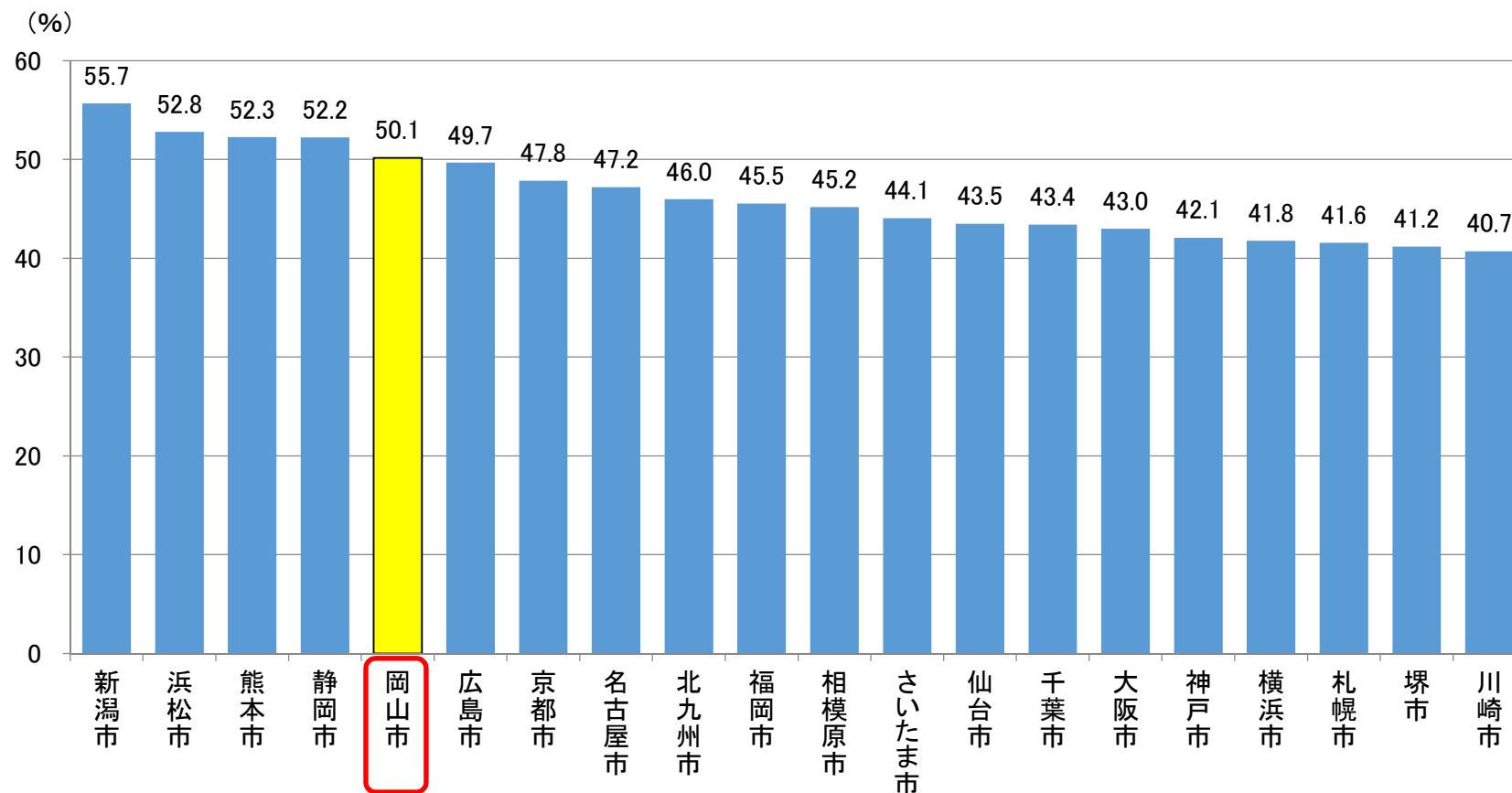


資料:就業構造基本調査(H24)

注:「育児をしている」とは、未就学児(小学校入学前の幼児)を対象とした育児
有業者は、就業構造基本調査における調査項目。ふだん収入を得ることを目的として仕事をしており、調査日以降もしていくことになっている者、及び仕事は持っているが、現在は休んでいる者。
就業者は、労働力調査や国勢調査における調査項目。月末の1週間に収入を伴う仕事をした者。
有業率、就業率は、人口に占めるそれらの割合。

指定都市別 子どものいる夫婦の共働き率

○岡山市の子どものいる夫婦の共働き率は50.1%であり、指定都市の中で5位である。



資料: 国勢調査

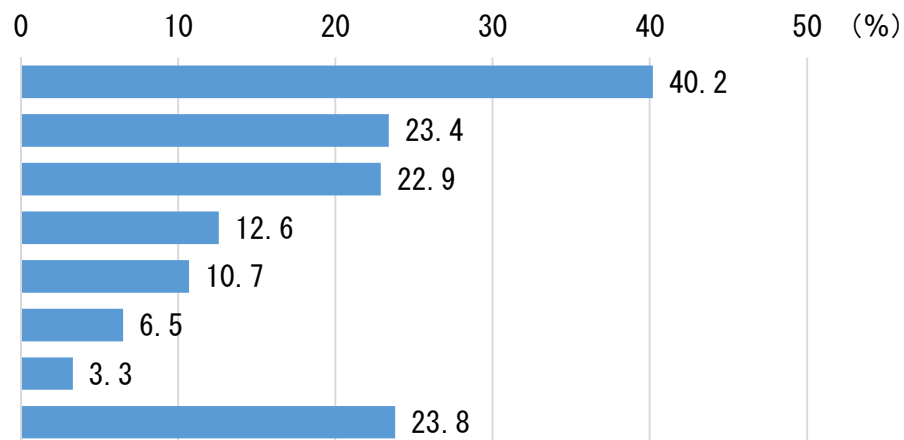
結婚や子育て期に仕事を辞めたいと思った理由(市調査)



○結婚時に仕事を辞めたいと思った理由の最多は、「仕事と家庭を両立する自信がなかったから」。
 ○出産・育児時に仕事を辞めたいと思った理由の最多は、「自分の手で子どもを育てたかったから」、次いで「仕事と子育てを両立する自信がなかったから」。

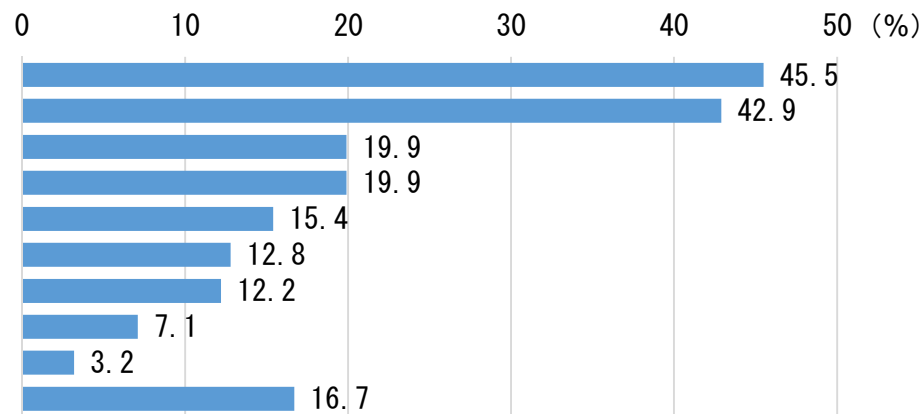
結婚時 (N=214) 複数回答

- 仕事と家庭を両立する自信がなかったから (N=86)
- 仕事に続けたいと思うほどの魅力がなかったから (N=50)
- 配偶者・パートナーと同居するために転居しなければならなかったから (N=49)
- 結婚後は退職するものという職場の雰囲気があったから (N=27)
- 配偶者・パートナーの理解と協力が得られなかったから (N=23)
- 配偶者・パートナーからの退職してほしいという希望があったから (N=14)
- 配偶者・パートナー以外の家族の理解と協力が得られなかったから (N= 7)
- その他 (N=51)



出産・育児時 (N=156) 複数回答

- 自分の手で子どもを育てたかったから (N=71)
- 仕事と子育てを両立する自信がなかったから (N=67)
- 仕事に続けたいと思うほどの魅力がなかったから (N=31)
- 職場に妊娠・出産後、仕事を継続するための支援制度がなかったから (N=31)
- 配偶者・パートナーの理解と協力が得られなかったから (N=24)
- 職場に妊娠・出産後は退職するものという雰囲気があったから (N=20)
- 子どもを預ける施設やサービスがなかったから (N=19)
- 配偶者・パートナー以外の家族の理解と協力が得られなかったから (N=11)
- 配偶者・パートナーからの退職してほしいという希望があったから (N= 5)
- その他 (N=26)

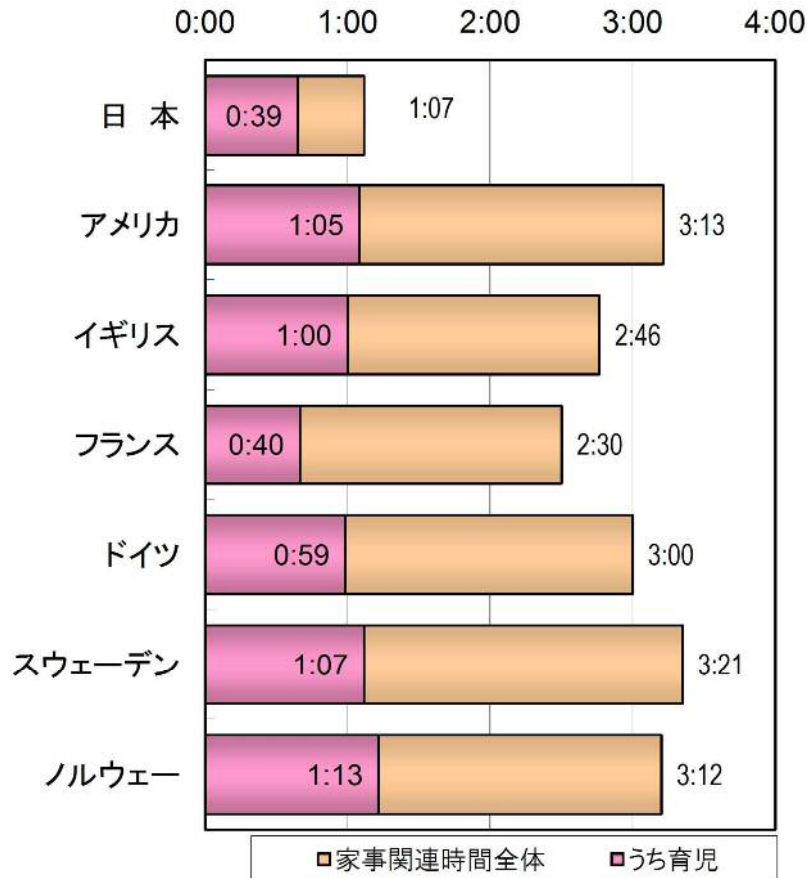


資料: 岡山市「女性が輝くまちづくり調査(H26)」

男性の育児・家事への参加(全国)①

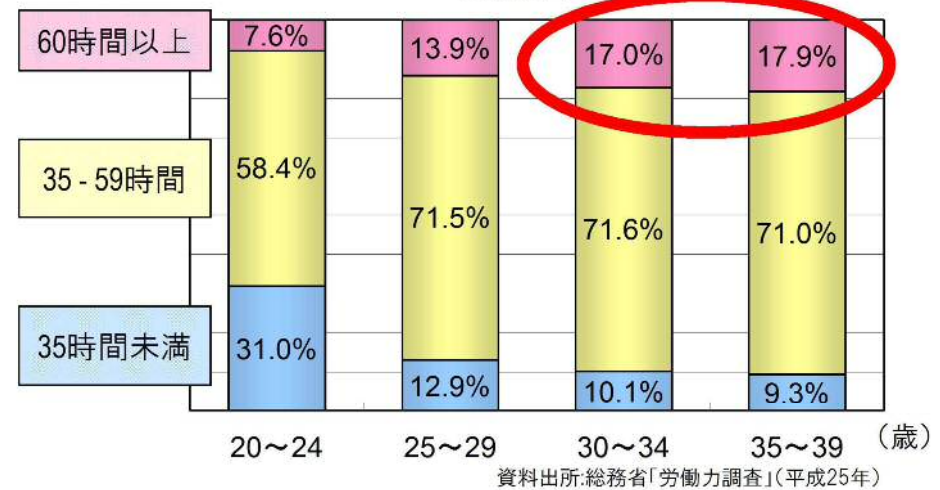
- 我が国の男性の家事・育児に費やす時間は世界的にも最も低い水準である。
- 男性の育休取得率は2%台であり、子育て期にある30歳代男性の約6人に1人は週60時間以上就業している。

6歳未満児をもつ男性の家事・育児時間

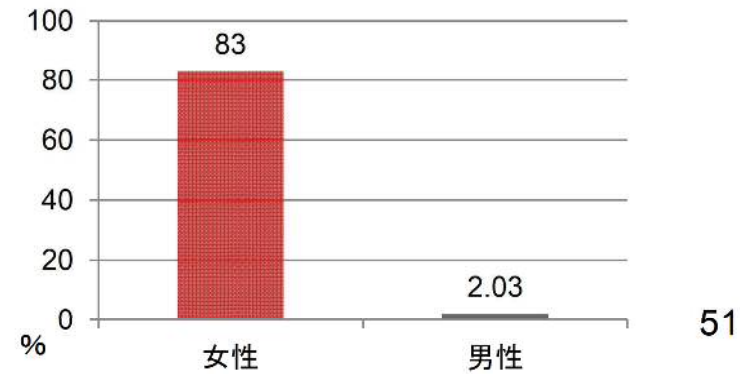


資料出所: Eurostat "How Europeans Spend Their Time Everyday Life of Women and Men" (2004)、Bureau of Labor Statistics of the U.S. "America Time-Use Survey Summary" (2006)、総務省「社会生活基本調査」(平成23年)

男性就業者(非農林業)の1週間の就業時間 2013年



男女の育休取得率



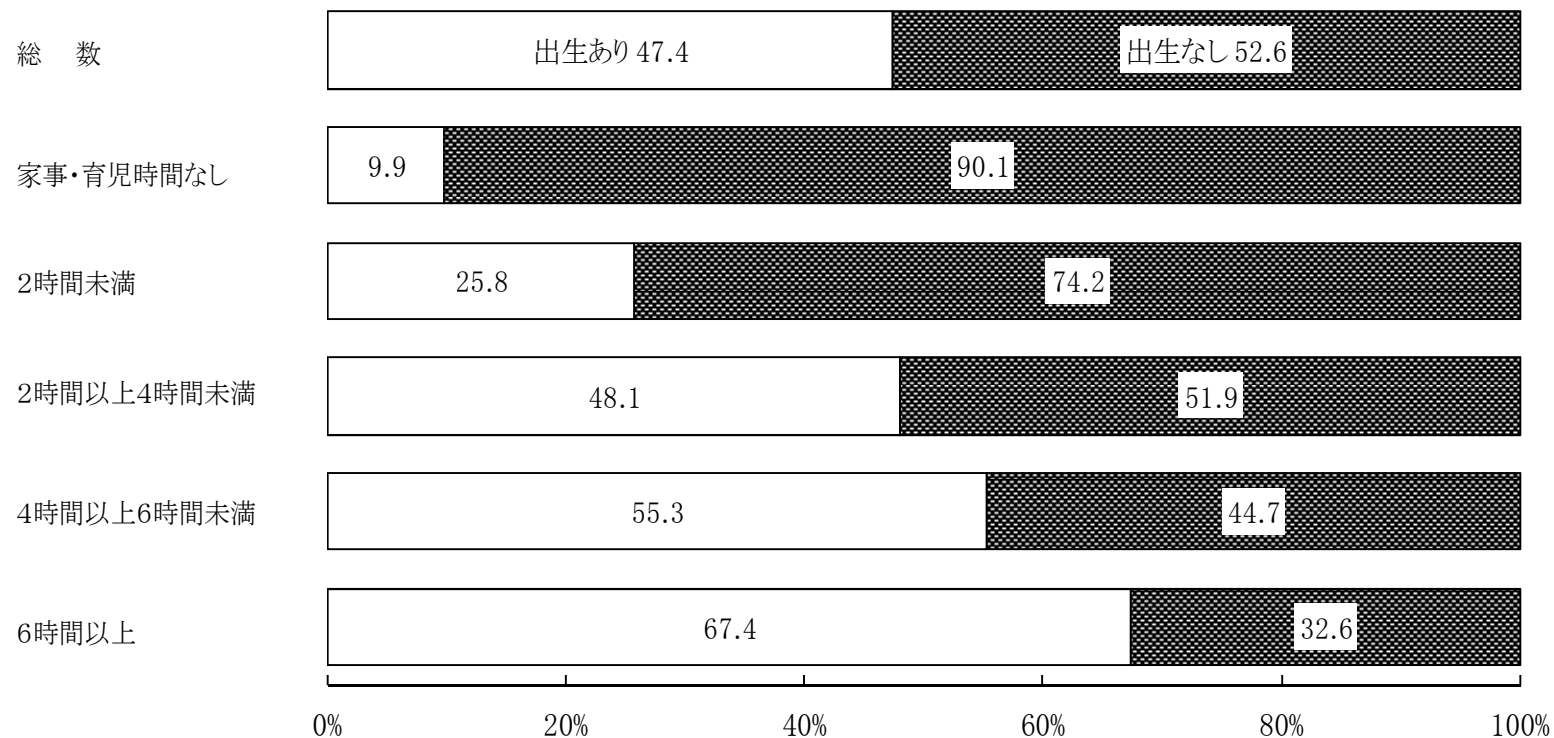
資料出所: 厚生労働省「雇用均等基本調査」(平成25年)

「内閣官房まち・ひと・しごと創生本部資料」より

男性の育児・家事への参加(全国)②

○夫の家事・育児時間が長いほど、第2子以降の出生割合が高い傾向にある。

子どもがいる夫婦の夫の休日の家事・育児時間別にみた、この8年間の第2子以降の出生の状況



注:1)集計対象は、①または②に該当し、かつ③に該当する同居夫婦である。ただし、妻の「出生前データ」が得られていない夫婦は除く。

①第1回調査から第9回調査まで双方が回答した夫婦

②第1回調査時に独身で第8回調査までの間に結婚し、結婚後第9回調査まで双方が回答した夫婦

③出生前調査時に、子ども1人以上ありの夫婦

2)家事・育児時間は、「出生あり」は出生前調査時の、「出生なし」は第8回調査時の状況である。

3)8年間で2人以上出生ありの場合は、末子について計上している。

4)総数には、家事・育児時間不詳を含む。

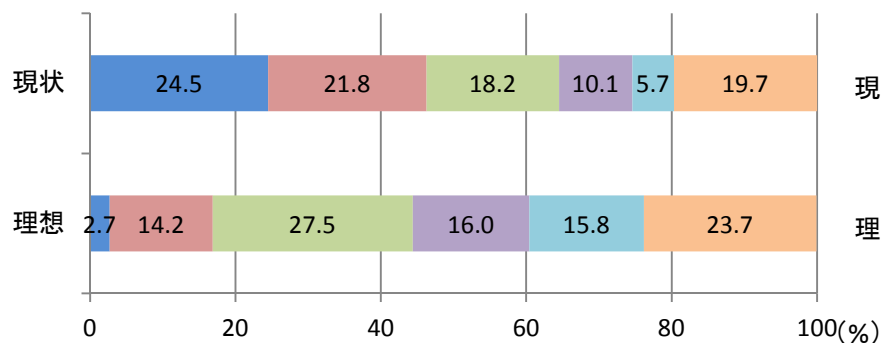
資料:厚生労働省「第9回21世紀成年者縦断調査」(2011)

「内閣官房まち・ひと・しごと創生本部資料」より

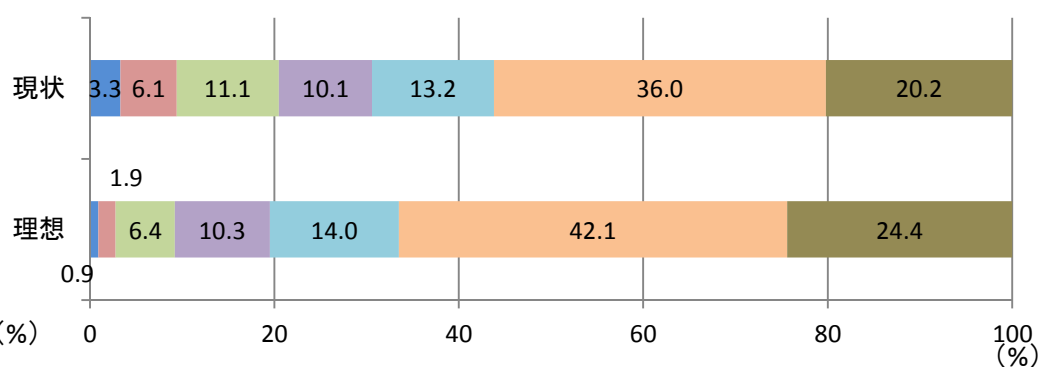
子どもとかかわる時間(市調査)

○主な男性の養育者(父親、祖父、おじ等)は主な女性の養育者(母親、祖母、おば等)に比べ、理想と現状の差が大きいとともに、理想とする時間も短い。

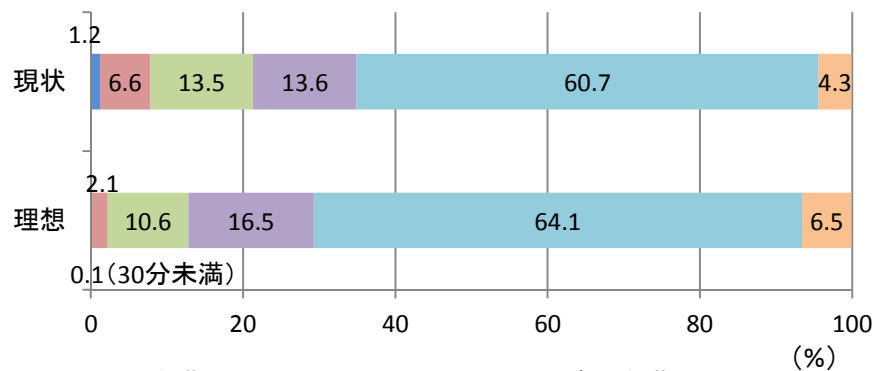
平日に子どもとかかわる時間(主な男性の養育者)



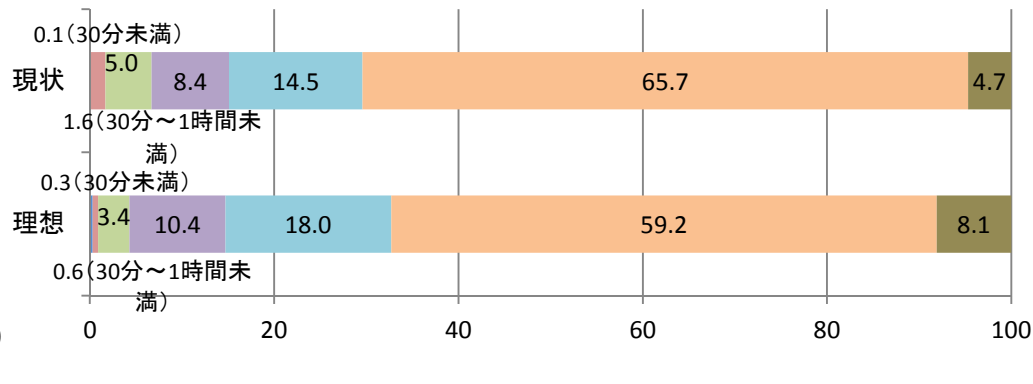
休日に子どもとかかわる時間(主な男性の養育者)



平日に子どもとかかわる時間(主な女性の養育者)



休日に子どもとかかわる時間(主な女性の養育者)



■ 30分未満
■ 30分～1時間未満
■ 1～2時間未満
■ 2～3時間未満
■ 3時間以上
■ 無回答

n=1979

■ 30分未満
■ 30分～1時間未満
■ 1～2時間未満
■ 2～3時間未満
■ 3～5時間未満
■ 5時間以上
■ 無回答

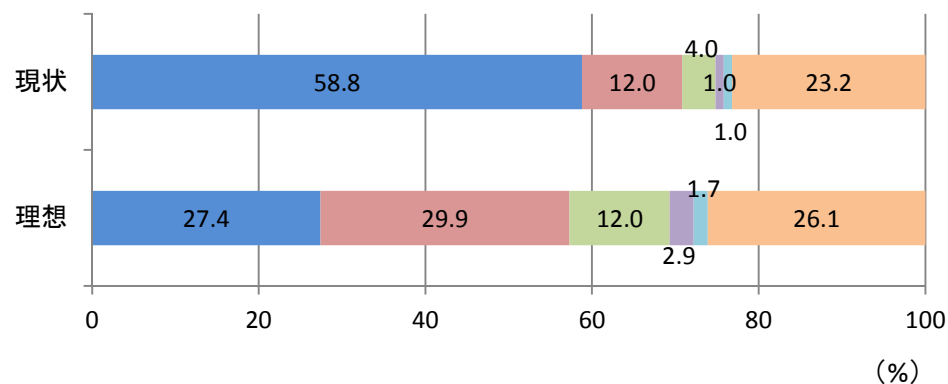
n=1979

資料: 岡山市「子ども・子育て支援に関するアンケート調査報告書(H24年11月)」

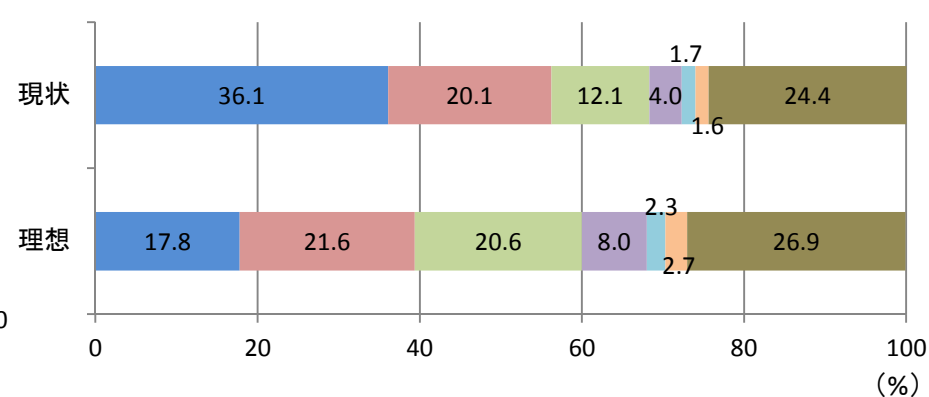
家事参加の時間(市調査)

○主な男性の養育者(父親、祖父、おじ等)は主な女性の養育者(母親、祖母、おば等)に比べ、理想と現状の差が大きいとともに、理想とする時間も短い。

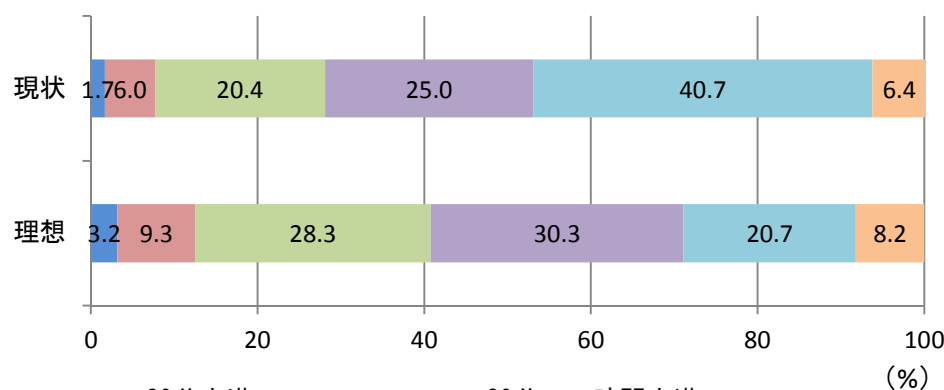
平日の家事等の時間(主な男性の養育者)



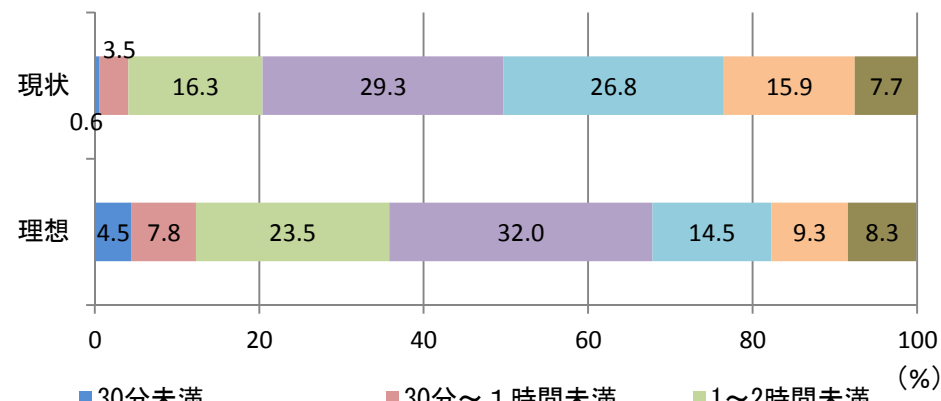
休日の家事等の時間(主な男性の養育者)



平日の家事等の時間(主な女性の養育者)



休日の家事等の時間(主な女性の養育者)



- 30分未満
- 30分～1時間未満
- 1～2時間未満
- 2～3時間未満
- 3時間以上
- 無回答
- 30分未満
- 30分～1時間未満
- 1～2時間未満
- 2～3時間未満
- 3～5時間未満
- 5時間以上
- 無回答

資料:岡山市「子ども・子育て支援に関するアンケート調査報告書(H24年11月)」

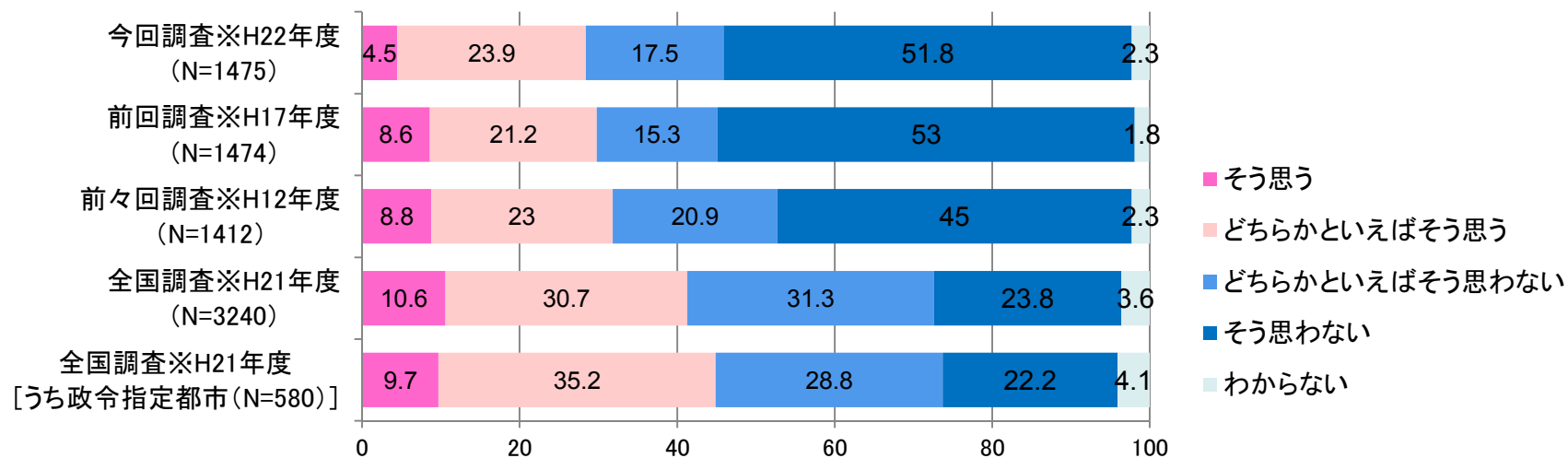
性別による固定的な役割分担意識（市調査）

○平成12年、平成17年調査と平成22年調査を比較すると男女の固定的な役割分担に否定的な意見は、65.9%→68.3%→69.3%と増加しており、固定的な役割分担に肯定的な意見は、31.8%→29.8%→28.4%と減少している。

○全国と比べ、岡山市では男女の固定的な役割分担について否定的な意見が多い。

男性は外で働くもの、女性は家庭を守るものだ

資料：男女共同参画に関する市民意識・実態調査



男性は外で働くもの、女性は家庭を守るものだ

資料：平成22年度 男女共同参画に関する市民意識・実態調査

